

山梨県上野原市
市内遺跡発掘調査報告書 2

2012

上野原市教育委員会

山梨県上野原市
市内遺跡発掘調査報告書 2

2012

上野原市教育委員会

序

本書は、上野原市内及び合併前の上野原町で実施した埋蔵文化財試掘調査の結果をまとめた報告書です。

試掘調査は、文化財保護と開発工事との調整を図るため、各種工事に先立ち実施しています。調査の結果、昔の暮らしや歴史を知るうえで様々な成果を市内各地で得ることができました。

例えば、市街地を見下ろす高台に営まれた縄文時代中期の集落と多数の生活用具、住宅街の狭間で発見された奈良時代の竪穴住居、江戸時代に村人が手を合わせて作った経塚など多岐に亘ります。

調査結果は学術資料として後世に伝えるため、できるだけ詳細な記録化に努めました。本書を地域史の解明や郷土学習にご活用いただければ幸いです。

最後に、これまでの調査にあたってご協力いただいた関係各位、ご指導やご助言をいただいた山梨県教育委員会学術文化財課を始めとする関係機関に厚くお礼を申し上げます。

平成24年3月

上野原市教育委員会

教育長 酒井信俊

例 言

1. 本書は、山梨県旧上野原町及び町村合併後の上野原市内で実施された埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本書は、平成6年度以前に旧上野原町で実施した試掘調査と、平成17年度以降に上野原市で実施した試掘調査の内容を掲載した。なお、平成6年度から平成17年度まで国庫・県費補助を受けた調査の報告書は刊行済である（「上野原市埋蔵文化財調査報告書第1集」平成18年）。
3. 調査は、平成16年度まで上野原町教育委員会が実施し、平成17年2月13日の町村合併後は上野原市教育委員会が実施した。調査者は小西直樹（社会教育担当）で、平成18年度から19年度については早勢加菜（文化財主事）と2名で担当した。報告書編集時の調査組織は次のとおりである。

事務局 上野原市教育委員会教育長 酒井信俊

教育学習課長 橋本茂治

社会教育担当リーダー 佐藤利彦

社会教育担当 小西直樹

参加者 加藤文宣、古根村典子、富岡ます美

4. 本書の執筆・編集は小西直樹が行った。
5. 調査に当たっては、地元区長や地権者をはじめとする関係者の方々及び関係機関に多大なご協力をいただいた。紙面の都合でご芳名を紹介できないが感謝申し上げます。
6. 本書にかかる出土品・記録図面等は、一括して上野原市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 本書に転載した地図は次のとおりである。

調査地位置図（第2・3図）：国土地理院発行2万5千分の1地形図

調査地点図（第23・24・27・42・46・48図）：昭和56年国土地理院の承認を得て調整した5千分の1地形図

2. 本文

- (1) 本文中の写真は調査地点の近景である。
- (2) 掲図の縮尺は図版スケールに明記した。ただし、明記がない図は任意の縮尺である。
- (3) 試掘溝の土層断面図は模式図である。
- (4) 表中の法量で（ ）内の数値は残存値を示す。
- (5) 煉瓦観察表中の色調は、「新版標準土色帖」（日本色彩研究所色票監修1988）を利用した。

目 次

序
例 言
凡 例

第Ⅰ章 上野原市の埋蔵文化財 1

第Ⅱ章 遺跡調査

1 山風呂遺跡	5
2 用竹神戸遺跡	8
3 田代遺跡	10
4 黒ノ木遺跡	12
5 大曾根遺跡	13
6 牧野遺跡（上野原西中学校）	20
7 小倉絆塚	21
8 上野原字上宿地点（上野原3521他）	24
9 西大野遺跡	25
10 上野原字仲戸戸地点	26
11 狐原Ⅱ遺跡（上野原77-11他）	27
12 狐原Ⅱ遺跡（上野原76-6他）	28
13 新屋原遺跡	29
14 根本山遺跡（上野原1397他）	30
15 内城館址（上野原1929-2他）	31
16 松留字金沢地点	32
17 当月遺跡	33
18 牧野遺跡（四方津439-11）	34
19 大日新田遺跡	35
20 上野原字寺畠地点	36
21 松留遺跡	37
22 新町遺跡	38
23 根本山遺跡（上野原1393-1）	41
24 新井遺跡	43
25 根本山遺跡（上野原1295-1他）	44
26 大浜遺跡	46
27 上野原字上宿地点（旧上野原中学校グラウンド）	47
28 上野原字外城地点	48
29 狐原Ⅱ遺跡（上野原78-3）	49
30 上野原字六貫日地点	50
31 日留野遺跡	51
32 上野原字関山地点	52
33 内城館址（上野原2144）	53
34 上野原字押出し地点	55
第Ⅲ章 まとめ	56

第Ⅰ章 上野原市の埋蔵文化財

第1節 上野原市の位置と遺跡

上野原市は山梨県東端の県境に位置し、平成17年に上野原町と秋山村が合併して誕生した新市である。首都60km圏内に位置し、JR中央線の上野原駅・四方津駅や国道20号（甲州街道）、中央自動車道の上野原インター、ジャンクションや談合坂サービスエリアなどの交通網が整備され、山梨県の東玄関として首都圏と甲府方面を結ぶ交通の要衝となっている。地勢は関東山地や丹沢山塊に開まれた山間地域で、市の中央部を流れる桂川（相模川）や支流の鶴川・秋山川沿いに河岸段丘地形が点在している。



第1図 上野原市の位置図

第2節 遺跡の調査状況

上野原市では、開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である場合や、開発面積が1,000m²を超えるなど市開発行為指導要綱の適用を受ける大規模な場合は、遺跡の有無や範囲、遺存状況を把握するため現地で試掘調査を行っている。この結果をもとに遺跡保存と開発工事との調整を図り、遺跡保存が困難となった場合に記録保存を目的とした発掘調査を実施している。発掘調査は旧上野原町域を中心に公共及び民間開発に伴い恒常に発生していたが、平成10年代をピークに減少し、ここ数年は試掘調査と併せて低い件数で推移している。

上野原市教育委員会が調査主体の場合、教育学習課社会教育担当の専門職員1名が開発調整から発掘調査、整理・報告書作成までを担当しているが、業務量の多さに出土品等の整理が追い付かず、報告書の刊行が慢性的に遅延している。このため、平成18年度から平成20年度まで文化財主事（非常勤）1名を増員し、報告書の刊行に努めた。

上野原市の遺跡台帳は、過去の分布調査（旧上野原町域は昭和47年実施、旧秋山村域は平成3年実施）をもとに作られ、隨時更新されている。旧秋山村域の場合、村誌編纂事業に伴う遺跡分布調査で、遺跡数が従来知られていた数の2倍を越え、39遺跡の存在が明らかになった。このことから、市内全域では未だ知られていない遺跡が多数あるものと考えられ、試掘を含めた遺跡確認調査が今後も必要である。

番号	遺跡名	調査地	調査原因	調査期間
1	山風呂遺跡	上野原字山風呂原5352他	スポーツ広場建設	1987.7.18~8.26
2	用竹神戸遺跡	桐原字神戸2374-1	観光施設建設	1991.3.2~3.6
3	田代遺跡	鶴島字田代3011	宅地開発	1992.3.2~3.13
4	黒ノ木遺跡	鶴島字黒ノ木3239-1	宅地開発	1992.6.23~6.27
5	大曾根遺跡	大曾根字九玉458他	宅地・商業・スポーツ施設等建設	1993.5.11~5.26
6	牧野遺跡	四方津字牧野道上322他	公立中学校建設	1994.5.9~5.16
7	小倉軒塚	大曾根字山神戸783	水道施設建設	2004.11.5.11.16
8		上野原字上宿3521、3531	宅地開発	2005.2.3
9	西大野遺跡	人野字峯2369-1	携帯電話基地局建設	2006.2.17
10		上野原字仲外戸1698	宅地開発	2006.4.13~4.14
11	狐原Ⅱ遺跡	上野原字木のはけ77-11他	個人住宅建設	2006.4.18
12	狐原Ⅲ遺跡	上野原字木のはけ76-6他	個人住宅建設	2006.4.28
13	新屋原遺跡	桐原字新屋3549~3577-1	県道改良工事	2006.7.20
14	根本山遺跡	上野原字新町1397、1398-2	個人住宅建設	2006.8.4
15	内城館址	上野原字福荷原1929-2他	大型店舗建設	2006.9.15
16		松留字金沢285-1他	店舗建設	2006.10.30
17	当月遺跡	四方津字当月916	個人住宅建設	2006.11.9
18	牧野遺跡	四方津字牧野道下439-11、442-1	個人住宅建設	2007.1.19
19	大目新田遺跡	大野字大平5705	県道改良工事	2007.6.7
20		上野原字寺畠4114他	店舗建設	2007.7.26
21	松留遺跡	松留字伊勢下863	携帯電話基地局建設	2007.11.8
22	新町遺跡	上野原字新町1454-1他	宅地開発	2008.2.20~2.21
23	根本山遺跡	上野原字新町1393-1	宅地開発	2008.7.7~7.9
24	新井遺跡	上野原字新井4524	墓地造成	2008.8.5
25	根本山遺跡	上野原字セッタイ1295-1他	宅地開発	2008.8.26~8.29
26	大浜遺跡	鶴川字森ヶ崎1130、1130-1	携帯電話基地局建設	2009.1.29
27		上野原字上宿3504	市立病院建設	2009.2.16~2.18
28		上野原字外城2164	宅地開発	2009.3.11
29	狐原Ⅱ遺跡	上野原字木のはけ78-3	個人住宅建設	2009.4.22
30		上野原字六貫日3793-1	宅地開発	2009.8.27
31	日留野遺跡	大野字日留野6607-1	携帯電話基地局建設	2009.12.9
32		上野原字関山754他	店舗建設	2010.2.15~2.16
33	内城館址	上野原字外城2144	高齢者介護施設建設	2010.4.27~4.28
34		上野原字押出し1873、1875-1	店舗駐車場造成	2011.9.16

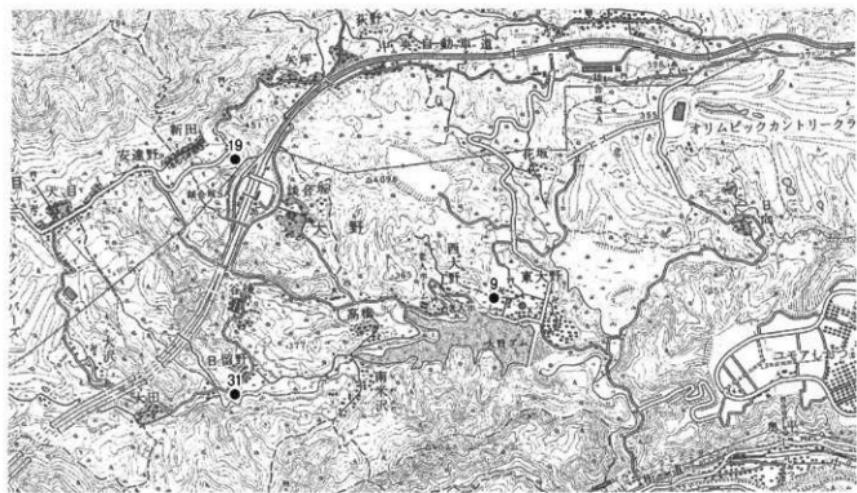
埋蔵文化財調査一覧



第2図 調査地位置図



柄原地区 (1/25000)



大目地区 (1/25000)

第3図 調査地位置図

1 山風呂遺跡

調査目的 スポーツ広場建設工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市上野原字山風呂原5352他

調査期間 昭和63年（1987）7月18日～8月26日

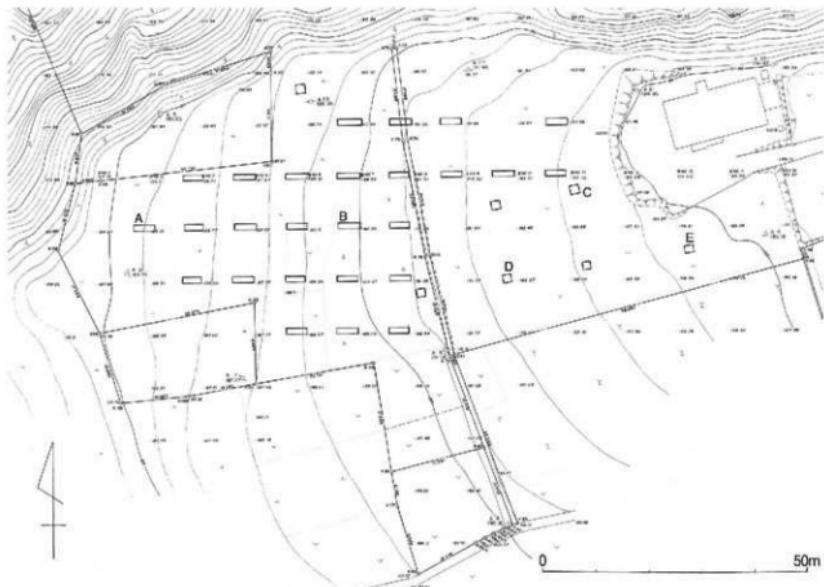
調査面積 100m²（対象面積22,372m²）

概要

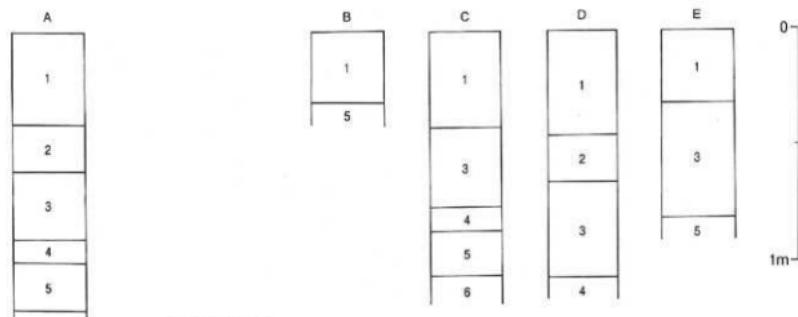
山風呂遺跡は鶴川東岸の河岸段丘面に位置し、この試掘調査で確認された。調査地点は平坦面から緩斜面にあたり、標高280m～290mである。一面雑草地であった。調査当初、平坦面に試掘坑6ヶ所を設定して人力で掘り下げたところ、



遺構は確認されなかったが、黒褐色土層を中心に縄文時代の土器や石器が総数30点出土した。その後、調査範囲を斜面地まで広げ、試掘溝26本を人力で掘り下げた。この結果、表土直下が地山ローム層となる所が多く、縄文土器片が数点出土した。調査結果を受けて、工事着手前に平坦面を対象に発掘調査が必要であることを事業者に指示した。工事は諸事情で中止となった。



第4図 調査区平面図

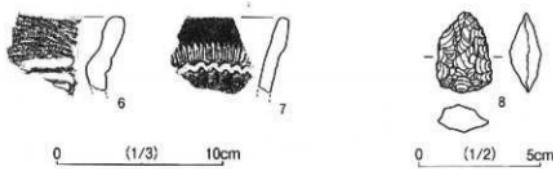


A トレンチ土層

- 1 表土
- 2 黒色土 粘性・締まり弱い。表土を塊状に含む。小石（1mm～1cm）多い。旧耕作土。
- 3 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。橙色スコリア（1mm～3mm）多い。
- 4 にぶい褐色土 粘性・締まりやや強い。
- 5 黒褐色土 粘性強く、締まりやや弱い。橙色スコリア（1mm～1cm）多い。
- 6 ソフトローム
- 7 ハードローム

B～E トレンチ土層

- 1 表土 耕作土
- 2 暗褐色土 粘性・締まり弱い。橙色スコリア（2mm以下）・小石（5mm以下）多い。
- 3 黒褐色土 粘性弱く、締まり強い。橙色スコリア（5mm以下）多い。
- 4 ローム漸移層
- 5 ソフトローム
- 6 ハードローム



第5図 土層図、出土遺物

出土遺物（第5図、図版3）

- 1～7は縄文土器である。
- 1、単節縄文LRが施される。胎土に纖維を含む。色調はぶい褐色で、焼成は不良である。Dトレンチ出土。
- 2、単節縄文LRが施される。胎土に砂粒、金雲母を含む。色調は褐色で、焼成は良い。Bトレンチ出土。
- 3、単節縄文RLが施され、内面は磨かれる。胎土に砂粒、黒雲母を含む。色調は外面黒褐色、内面にぶい褐色で、焼成は良い。
- 4、横位の沈線下に単節縄文RLが練らに施される。胎土に砂粒、黒・金雲母を含む。色調は外面赤褐色、内面暗褐色で、焼成は良い。
- 5、細かな縄文地に、平行沈線による木の葉状文が配される。内面は磨かれる。胎土に砂粒を含む。色調は褐色で、焼成は良い。器厚6mm。割れ口の一端は、口縁に丸く再加工された可能性がある。
- 6、口縁は内溝し、わずかに波状を呈する。細かな単節縄文RL、幅広の沈線文が施される。胎土に砂粒・金雲母を含む。色調は赤褐色で、焼成は良い。
- 7、口縁下にキャタピラ文、波状の押引沈線文が巡り、胴部は指痕圧痕文が連続する。胎土に砂粒・金雲母を含む。色調は黒褐色で、焼成は良い。内面の一部に赤彩が残る。表採資料。
- 以上のうち、1は前期前半、2～5は前期後半・諸磯a～b式、6は中期初頭・五領ヶ台式、7は中期中葉・藤内式期に比定される。
- 8は形状から石鏸未成品と考えられる。長さ3.1cm、幅2.2cm、厚さ1cm、重さ5g。石材は黒曜石である。

2 用竹神戸遺跡

調査目的 ふるさと長寿館建設工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市桐原字神戸2374-1他

調査期間 平成3年(1991)3月2日~3月6日

調査面積 50m²(対象面積1,500m²)

概要

用竹神戸遺跡は鶴川西岸に位置し、弥生時代の遺物散布地である。調査地点は遺跡南東側の緩斜面で、標高は310m~320mであった。試掘溝を人力で掘り下げた結果、礫混じりの土層で縄文土器や石器が出土した。

出土遺物(第7図、図版3)

1~7は縄文土器である。1、条痕文が外面に施される。胎土に砂粒、纖維を多く含む。色調は外面褐色、内面暗褐色で、焼成はやや不良である。

2、単節縄文RLが施される。胎土に石英、金雲母を多く含む他、纖維をわずかに含む。色調は外面褐色、内面暗褐色で、焼成は良い。

3、単節縄文RLを地文に、沈線文や交互刺突文が施される。胎土に砂粒、石英、金・黒雲母を含む。色調は外面黒褐色、内面暗褐色で、焼成は良い。

4・5、横位の平行沈線文、交互刺突文、縦位の条線が施される。胎土に砂粒、金雲母を含む。色調は黒褐色、にぶい褐色で、焼成は良い。

6・7、沈線区画の縄文帯が配される。胎土に砂粒、石英、金雲母を含む。色調は概ね褐色で、焼成は良い。

以上のうち、1は早期後半、2は前期前半、3~5は中期初頭・五領ヶ台式、6・7は後期初頭・称名寺式に比定される。

8~14は石器である。8、石鐵。長さ1.4cm・幅1.3cm・厚さ3mm・重さ0.5g。黒曜石。

9、打製石斧。刃部と両側縁は摩耗する。長さ18.0cm・幅8.4cm・厚さ3.6cm・重さ630g。砂岩。

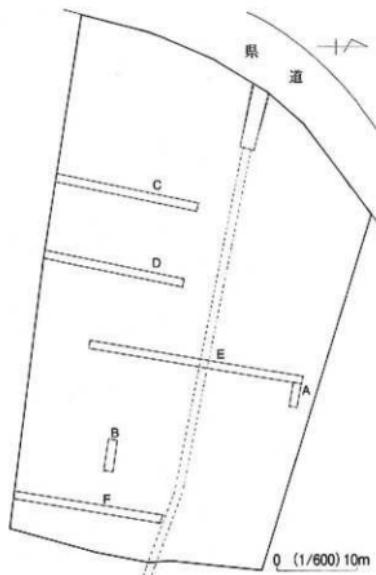
10、横刃形石器。片側に自然面を残す。現存長7.9cm・幅5.4cm・厚さ1.0cm・重さ62g。砂岩。

11、横刃形石器。長さ17.3cm・幅4.9cm・厚さ0.9cm・重さ96g。片岩。

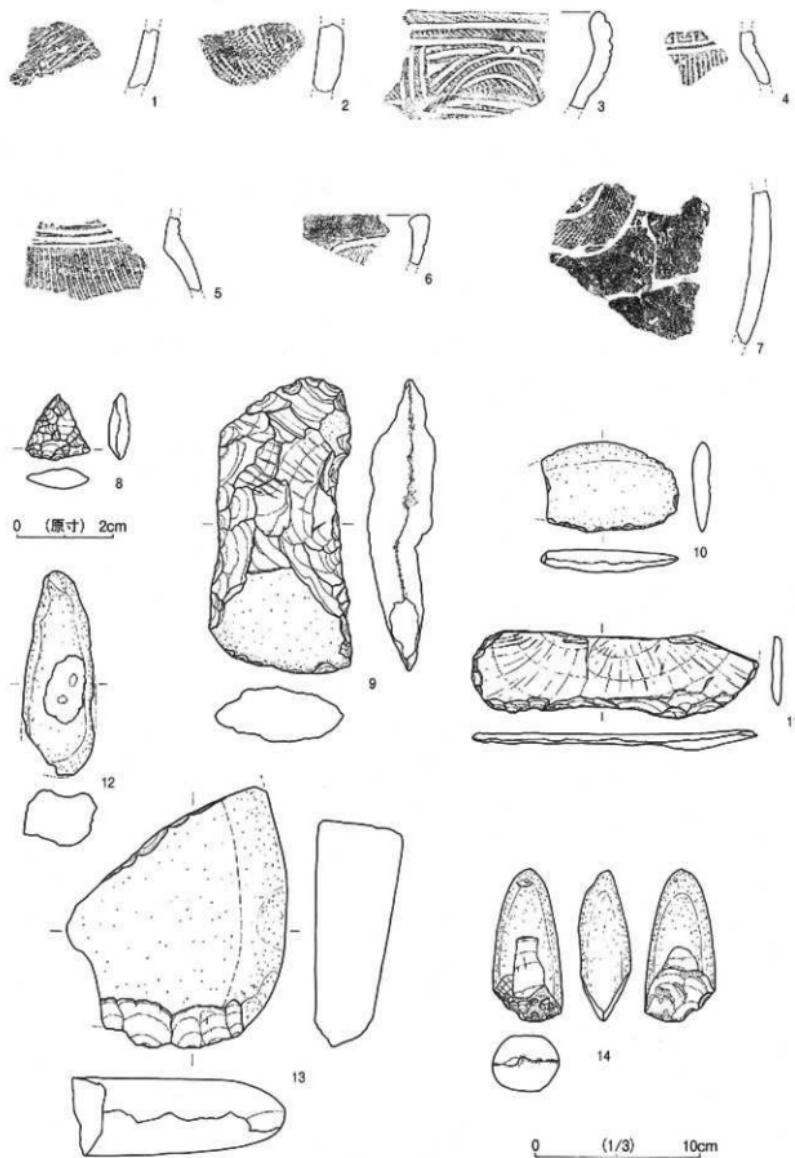
12、凹石。片面に凹みが残る。長さ12.5cm・幅4.4cm・厚さ3.2cm・重さ190g。泥質片岩。

13、台石。片側に平坦な磨面を残す。一端を両面から粗く打ち欠いて刃部としており、台石の破損後に礫器に転用したものと思われる。厚さ5.2cm・重さ1530g。安山岩。

14、磨製石斧。破断面を刃部に再加工したものと思われ、刃部は摩耗する。表面の一部は煤けている。長さ9.3cm・幅4.1cm・厚さ3.1cm・重さ172g。蛇紋岩。



第6図 調査区平面図



第7図 出土遺物

3 由代遺跡

調査目的 宅地造成工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市鶴島字田代3011

調査期間 平成4年(1992)3月2日~3月13日

調査面積 48m² (対象面積1,090m²)

概要

田代遺跡は桂川南岸の河岸段丘面に位置し、縄文時代の遺物散布地である。調査地点は平坦面から緩斜面にあたり、標高262m~267mである。一面雑草地であった。試掘溝を



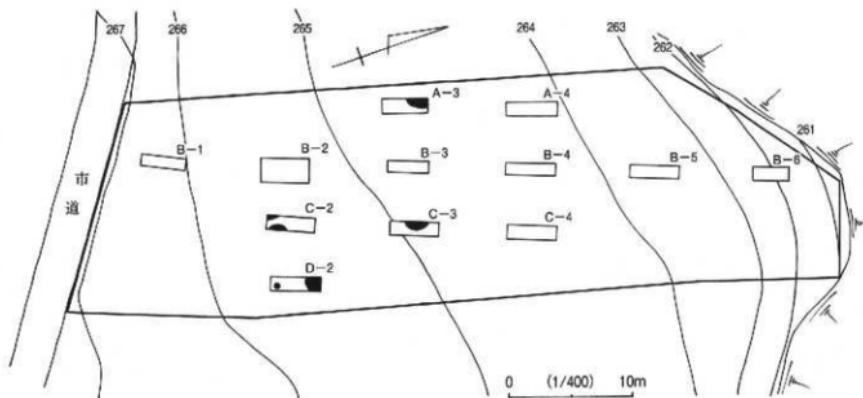
人力で掘り下げた結果、平坦面で土坑あるいは竪穴住居と思われる黒色格円形プラン5ヶ所、ピットと思われる黒色円形プラン1ヶ所を確認した。遺物は平坦面の暗褐色土層を中心に縄文時代の土器や石器が総数20点出土した。調査結果を受けて、工事着手前に発掘調査が必要であることを事業者に指示した。工事は諸事情で中止となった。

出土遺物 (第9図、図版3)

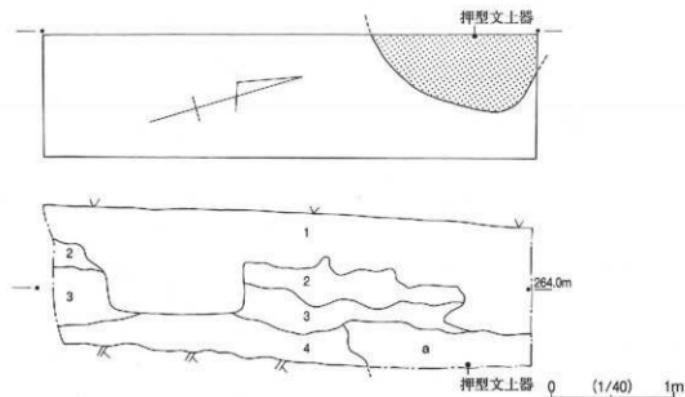
1~3は縄文土器である。1、楕円押型文が施される。胎土に砂粒が多く含む。色調は外面褐色、内面暗褐色で、焼成は良い。B-2トレンチ出土。2、縄文を地文として竹管状工具による刺突文が施される。胎土に砂粒、石英、金雲母、繊維を含む。色調はにぶい褐色で、焼成は良い。C-3トレンチ出土。3、内湾口縁で、内面に波状押引文が施される。胎土に砂粒、石英、金雲母を含む。色調は褐色で、焼成は良い。B-2トレンチ出土。以上のうち、1は早期中葉、2は前期前半・黒浜式、3は中期中葉・貉沢式期に比定される。

4、打製石斧。長さ15.1cm・幅8.5cm・厚さ2.1cm、重さ290g。砂岩。C-2トレンチ出土。

5、凹石。長さ10.3cm・幅9.8cm・厚さ4.5cm・重さ670g。安山岩。表採資料。

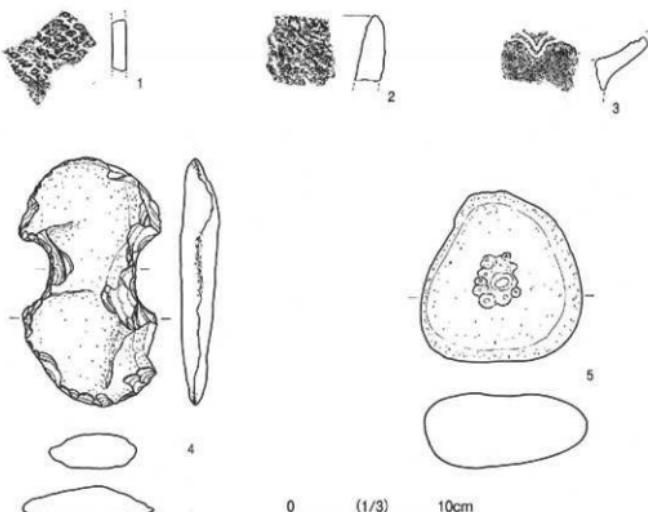


第8図 調査区平面図



- 1 表土 粘性やや強く、締まり弱い。小石（1cm以下）多い。
 2 褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。
 3 暗褐色土 粘性強く、締まりやや強い。
 4 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。橙色スコリア（5mm以下）多い。
 5 黒褐色土 粘性弱く、締まりやや強い。橙色スコリア（1mm～5mm）多い。炭粒少量。遺構覆土。

A-3 トレンチ



第9図 遺構確認状況、出土遺物

4 黒ノ木遺跡

調査目的 宅地造成工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市鶴島字黒ノ木3239-1

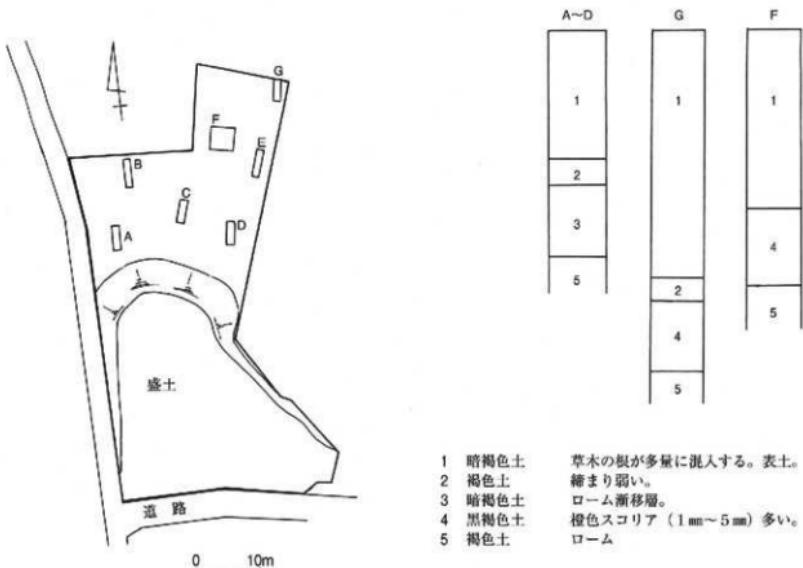
調査期間 平成4年(1992) 6月23日～6月27日

調査面積 40m² (対象面積540m²)

概要

黒ノ木遺跡は桂川南岸の台地上に位置し、縄文土器・土師器の散布地である。調査地点は台地端部の緩斜面にあたり、標高262m～267mである。工事用の土砂が調査区内に搬入されていたため、旧地形が残る雑草地に試掘溝7本を設定し、

人力で掘り下げた。調査の結果、遺構は確認されず、土師器の細片1点が表土から出土したのみであった。このため、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



第10図 調査区平面・土層図

5 大曾根遺跡

調査目的 宅地・商業・スポーツ施設等建設工事に伴う試掘

調査

調査地 上野原市大曾根字九玉458他

調査期間 平成5年(1993)5月11日～5月26日

調査面積 490m² (対象面積約9,000m²)

概要

大曾根遺跡は仲間川北岸の河岸段丘面上に位置する。遺跡北端の最上位に地区の共同墓地があり、他は杉・檜の林や篠竹等の草地が広がっていた。地形は比較的平坦で、縁辺に向かい緩く傾斜する。標高294m～302mである。



試掘調査は墓地を除く段丘上のはば全面を対象に実施した。試掘溝36本を設定し、重機を併用して掘り下げた。層序は、草木の根が多く混入する表土直下がローム層となり、段丘中央部で暗褐色土が介在する。遺構は竪穴住居址・土坑・ピット・集石が確認され、遺物は縄文時代の土器293点・土製品1点・石器40点・礫231点(集石を除く)が出土した。時期は縄文中期が主体を占める。調査結果を受けて、工事着手前に発掘調査が必要であることを事業者に指示した。工事は諸事情で中止となった。

遺構と遺物(第11図～15図、図版1・4～6)

3トレンチでピット3基を確認した。

10トレンチで竪穴住居1軒を確認した。平面規模は南北5.6mを測る。遺物は土器・石器が出土した(第12図)。1・2は隆帯や太沈線によって文様が構成される大型の深鉢で、3はこれらに伴う底部であろう。隆帯上は連続する刻みや短沈線が施され、隆帯区画内は沈線による三叉文や同心円文、集合沈線で埋められる。4は台石で、片側の平坦な磨面に打痕と思われる点状の凹みが認められる。

11トレンチで竪穴住居1軒、集石1基を確認した。集石の平面規模は南北1.3mを測る。遺物は土器・石器が出土した(第12～13図)。5～12は隆帯や太沈線によって文様が構成される深鉢である。隆帯上は11を除き、連続する刻みや交互の刻み、矢羽状の刻み、連続爪形文、短沈線が施される。隆帯区画内は沈線による三叉状の文様(8)や集合沈線(7・9)、半隆帯による渦巻文(10)で埋められる。5は条線、13は継位の繩文が地文となる。石器は、打製石斧(14～21)、礫器(22・23)、磨石類(24)、石鎚(25)が出土した。このうち、23は礫の一側縁を両面から粗く打ち欠き刃部としており、刃部は摩耗している。24は両面に磨面をもち、片面に凹みが認められる。25は扁平な剥片を用い、両側縁は鋸歯状の細い調整が加えられる。

12トレンチでピット1基を確認した。遺物は円形の貫通孔をもつ脚台部が出土した(第14図26)。

13トレンチでピット9基を確認した。遺物は深鉢胴部が出土した(第14図27)。隆帯上に連続する刻みや短沈線が施され、隆帯区画内は沈線による三叉状の文様や渦巻文、列点文で埋められる。

15トレンチでピット1基を確認した。

16・18・20トレンチで竪穴住居3軒を確認した。

19トレンチで打製石斧が出土した(第14図28)。

23トレンチで集石1基を確認した。平面規模は東西1.5mを測る。

24トレンチで竪穴住居1軒、ピット1基を確認した。遺物は土器・石器が出土した(第14図)。29は深鉢で、隆帯上は矢羽状や交互の刻み、区画内は集合沈線や三叉文で埋められる。30は打製石斧である。

31トレンチで竪穴住居1軒を確認した。遺物は浅鉢の胴上半部が出土した(第14図31)。

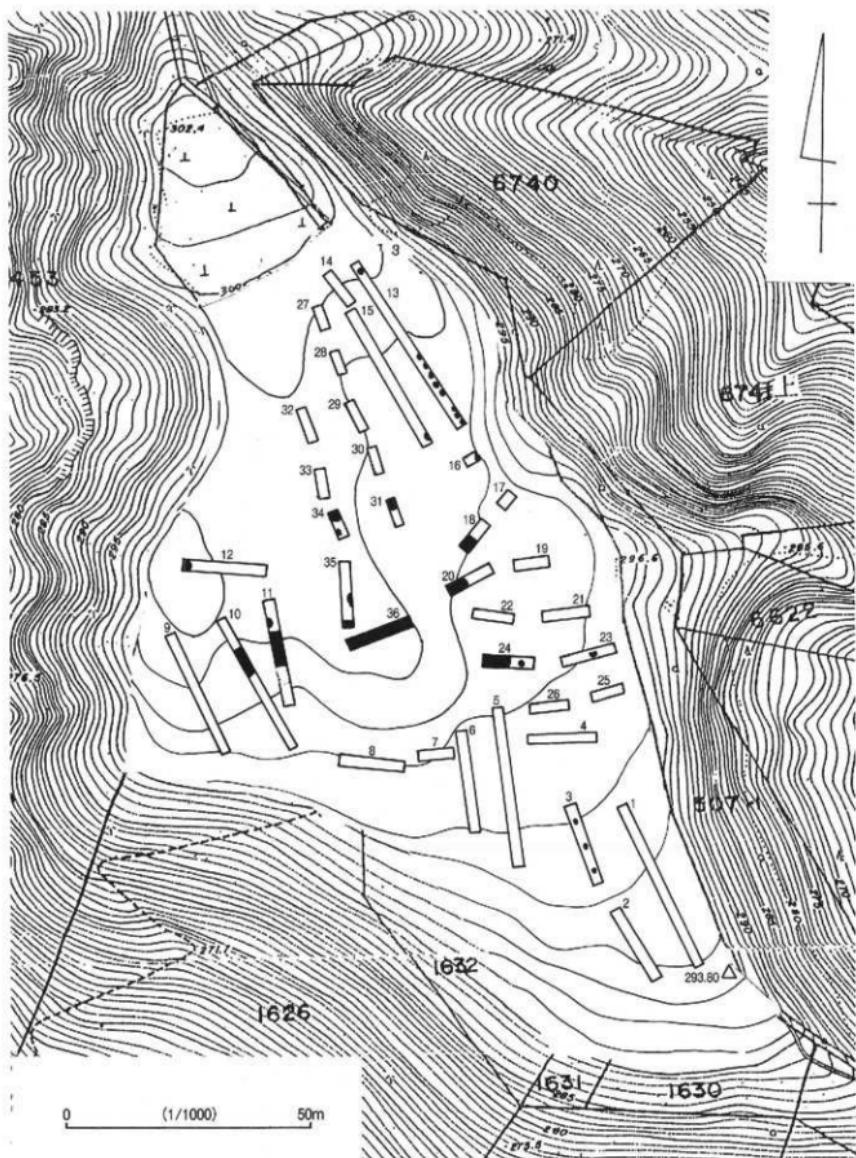
34 トレンチで豊穴住居 1 軒、土坑あるいはビット 1 基を確認した。

35・36 トレンチで豊穴住居 2 軒、土坑 1 基を確認した。遺物は土器・土製品・石器が出土した（第 14～15 図）。32・33 は隆帯や太沈線によって文様が構成される深鉢で、隆帯上は連続する刻みや爪形文、隆帯区画内には集合沈線や連続する刻み、交互の刻みが施される。34 は口唇部に連続爪形文、35 は平行沈線文、三叉状の沈線文、連続する刻みが施される。36 は深鉢形のミニチュア土器で、斜位の網文が施される。37 は双孔把手が付く深鉢口縁。38 は浅鉢で、口縁の一端に連続爪形文で縁取られた渦巻状の把手が付く。胴部は隆帯による横円区画内に沈線による渦巻文や短沈線が施される。推定口径 29 cm・器高 9 cm・底径 16 cm を測る。39 は土偶頭部で、後頭部に隆帯や一対の貫通孔をもつ。頭部は中空で、内部に小石等が入っているため振ると音が鳴る。石器は打製石斧（40～43）、石匙（44・45）、側縁に両面加工の刃部をもつ横刃形石器（46・47）が出土した。

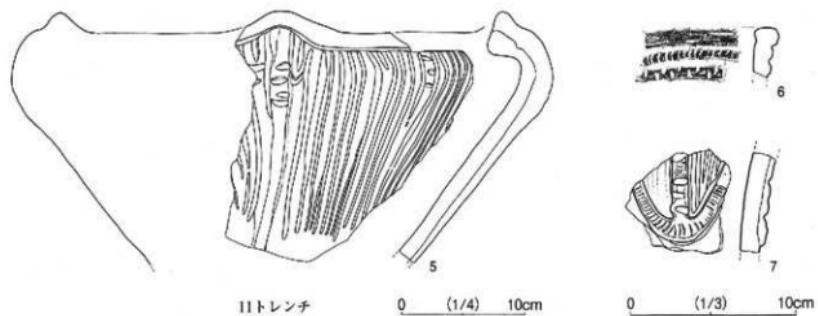
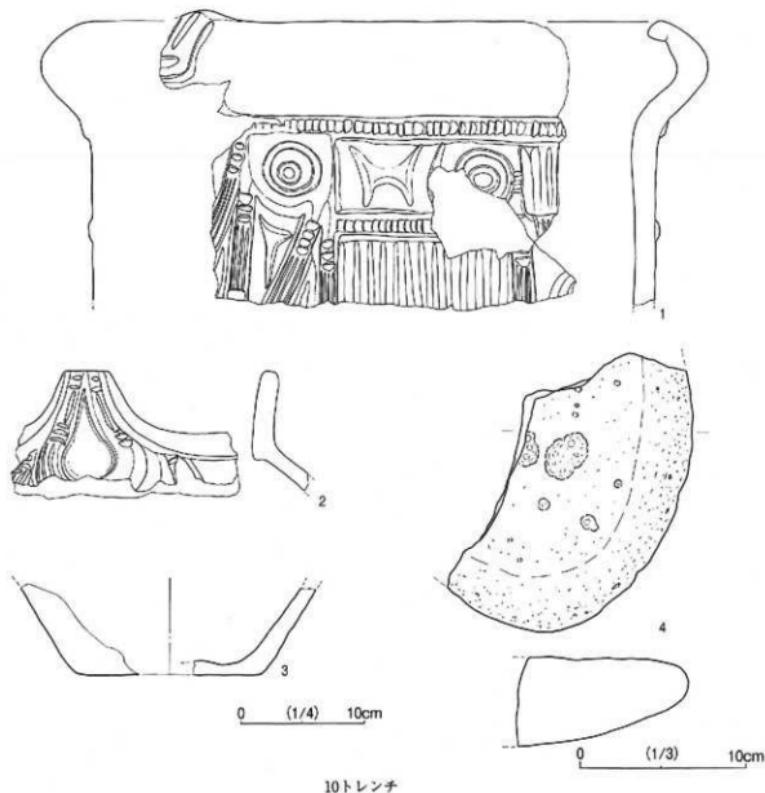
以上の土器は網文中期中業・井戸尻式期に比定され、石器も概ねこの時期のものであろう。この他、図にはないが、11 トレンチで網文地に結節浮線文を施した前期終末期の上器片が 1 点出土した。

拂団番号	出土区	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材
第12図4	10トレンチ	台石	(14.6)	(10.5)	5.4	1388	多孔質安山岩
第13図14	11トレンチ	打製石斧	8.8	5.2	1.5	60	砂岩
第13図15	11トレンチ	打製石斧	11.1	4.0	1.4	65	砂岩
第13図16	11トレンチ	打製石斧	10.0	3.6	1.8	89	凝灰岩
第13図17	11トレンチ	打製石斧	9.5	4.9	1.7	70	泥質片岩
第13図18	11トレンチ	打製石斧	(9.8)	4.8	1.8	115	ホルンフェルス
第13図19	11トレンチ	打製石斧	10.5	4.3	1.9	86	ホルンフェルス
第13図20	11トレンチ	打製石斧	10.5	4.5	1.2	72	砂岩
第13図21	11トレンチ	打製石斧	16.0	6.4	1.9	245	ホルンフェルス
第13図22	11トレンチ	礫器	7.6	7.2	2.0	146	砂岩
第13図23	11トレンチ	礫器	11.0	8.2	4.0	486	砂岩
第13図24	11トレンチ	磨石類	10.4	6.9	4.0	455	石英閃緑岩
第13図25	11トレンチ	石鐵	2.6	2.0	0.2	1.9	片岩
第14図28	19トレンチ	打製石斧	(9.0)	8.0	3.6	310	砂岩
第14図30	24トレンチ	打製石斧	(9.5)	5.2	2.0	140	砂岩
第15図40	36トレンチ	打製石斧	9.4	4.7	2.0	100	ホルンフェルス
第15図41	36トレンチ	打製石斧	10.7	4.7	1.3	60	ホルンフェルス
第15図42	36トレンチ	打製石斧	12.8	4.7	2.0	160	ホルンフェルス
第15図43	36トレンチ	打製石斧	11.2	6.0	2.9	196	砂岩
第15図44	36トレンチ	石匙	(8.5)	6.5	1.0	48	砂岩
第15図45	36トレンチ	石匙	13.3	3.7	1.2	54	泥岩
第15図46	36トレンチ	横刃形石器	(8.0)	8.1	1.7	130	ホルンフェルス
第15図47	36トレンチ	横刃形石器	8.2	8.8	1.5	88	ホルンフェルス

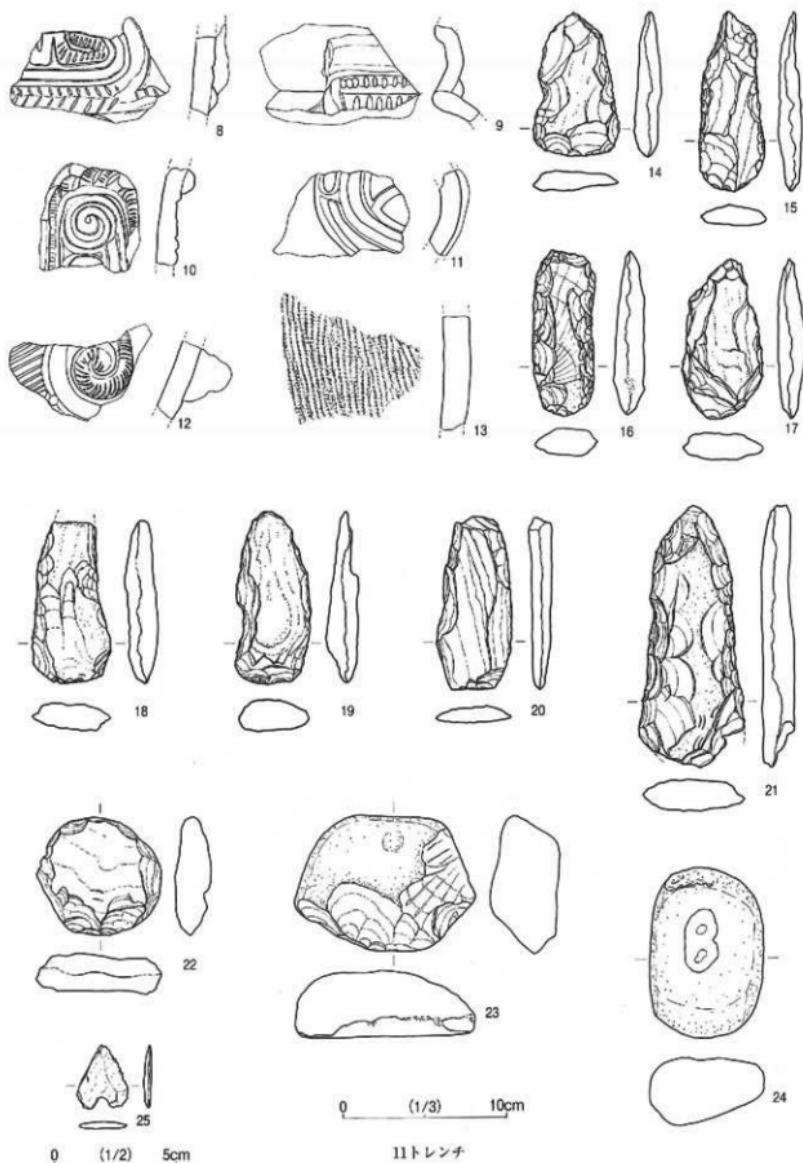
大曾根遺跡出土石器一覧表



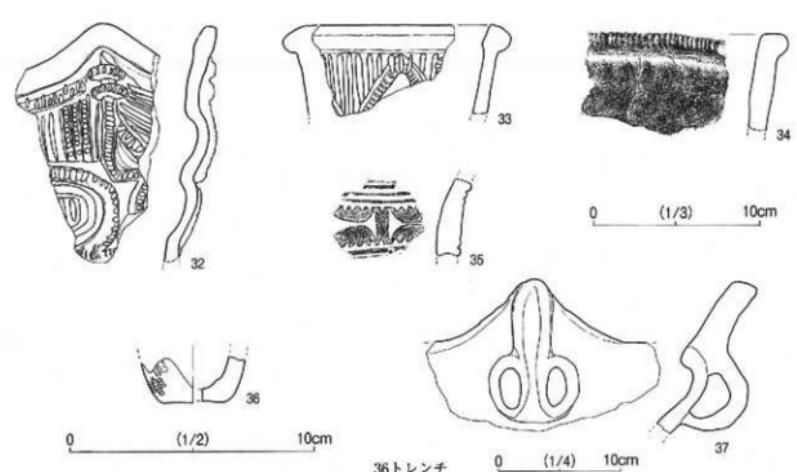
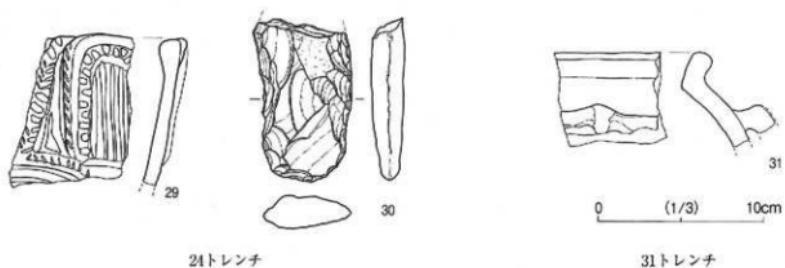
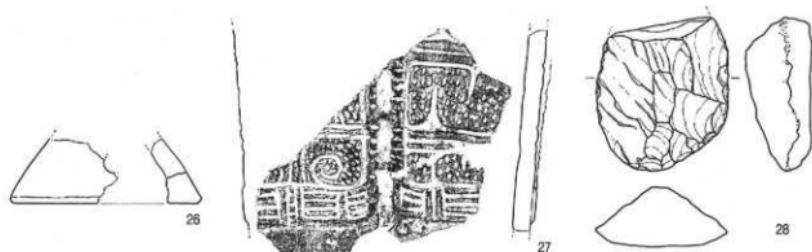
第11図 調査区平面図



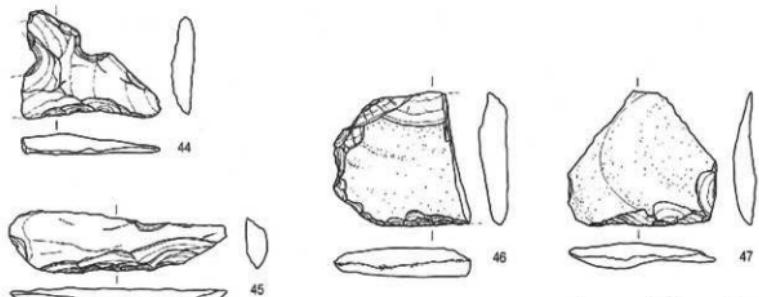
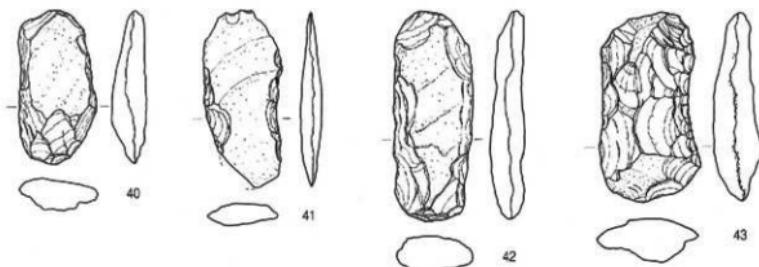
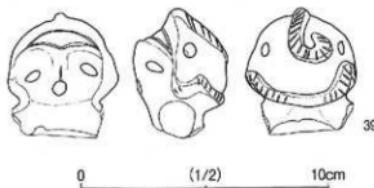
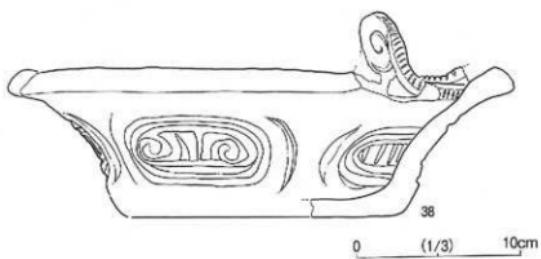
第12図 出土遺物



第13図 出土遺物



第14図 出土遺物



36トレンチ
第15図 出土遺物

6 牧野遺跡

調査目的 町立巣中学校（現在の上野原西中学校）建設工事
に伴う試掘調査

調査地 上野原市四方津字牧野道上322、323他

調査期間 平成6年（1994）5月9日～5月16日

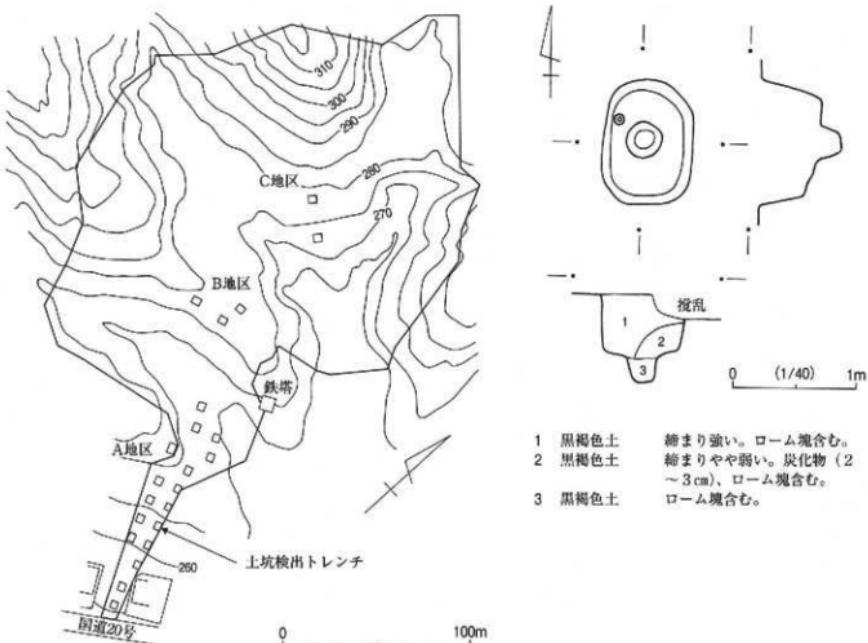
調査面積 84m²（対象面積20,000m²）

概要

牧野遺跡は桂川北岸の河岸段丘面に位置し、縄文時代前期・中期の遺物散布地である。遺跡東側の斜面地から尾根上に2m四方の試掘坑21ヶ所を設定し、重機を併用して掘り下



げた。全般に蘿竹や草木が密生し、表土直下が地山ローム層であった。調査の結果、出土遺物はなく、遺構はA地区の斜面地で土坑1基を検出した。確認面はローム層上面である。土坑は平面椭円形で、長軸100cm・短軸75cm・深さ50cmを測る。底面にピット2基を伴う。構築時期は不明である。遺構・遺物の希薄な状況から本調査は実施しなかった。



第16図 調査区平面図、土坑

7 小倉經塚

調査目的 小倉地区配水池建設工事に伴う調査

調査地 上野原市大曾根字山神戸783番地

調査期間 平成16年(2004)11月5日・16日

調査面積 4 m²

概要

平成16年1月、小倉地区配水池建設予定地の山林で江戸期の石經塔1基が発見されたため、事業主の山梨県東部広域水道企業団と協議し、石碑移転時に下部遺構を調査した。

この結果、台座直下に石室が見つかり、内部から多數の石（經石）が出土した。すべての石を調査した結果、6個の表面に墨書や墨痕が認められ、法華經の一部が書写されていることが分かった。大半は一個の石に數文字から數行にわたって文字を書いた多字一石であった。調査終了後、地元と協議の上、墨書がある石は市教育委員会が保管し、他の石はすべて石碑の移転先に埋納した。

遺構と遺物 (第18~19図、図版1・6・7)

経碑は台座から分離して横倒しになっており、高さ62cm・最大幅50cmを測る。碑の銘文は、中央に「石寫大乘經碣」、右側に「天保十四癸未歳」「書寫頭院」「魚德為」、左側に「初秋上浣造立之」「本願主當組中」と刻まれる。台座は平面67cm×65cm、高さ30cmを測る。

石室が台座直下に発見された。大形の自然石を平面方形に配し、石室の内径は1辺約80cmを測る。壁は1段で、高さ30cmである。底面に扁平な自然石が敷かれる。

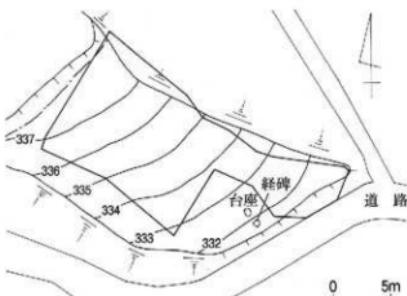
經石が石室内部から密集して検出された。石の総数は1,782点、総重量13,419gである。石の大きさは長軸4cm~9cm内に取まるものが大半である。石は近隣から採取した河原石と思われる。墨書は6点に認められ、このうち4点を図示した。

1、片面に複数の墨書き文字が三行程度残され、一部で墨痕が重複している。文字は「常放大光明具足諸神通」「□名偏十切之所□」「成昇妙樓閣」と書かれ、法華經二十八品のうち「五百弟子受記品第八」を書写したものであろう。石は長さ10.1cm・幅4.6cm・厚さ3.6cm・重さ176gである。

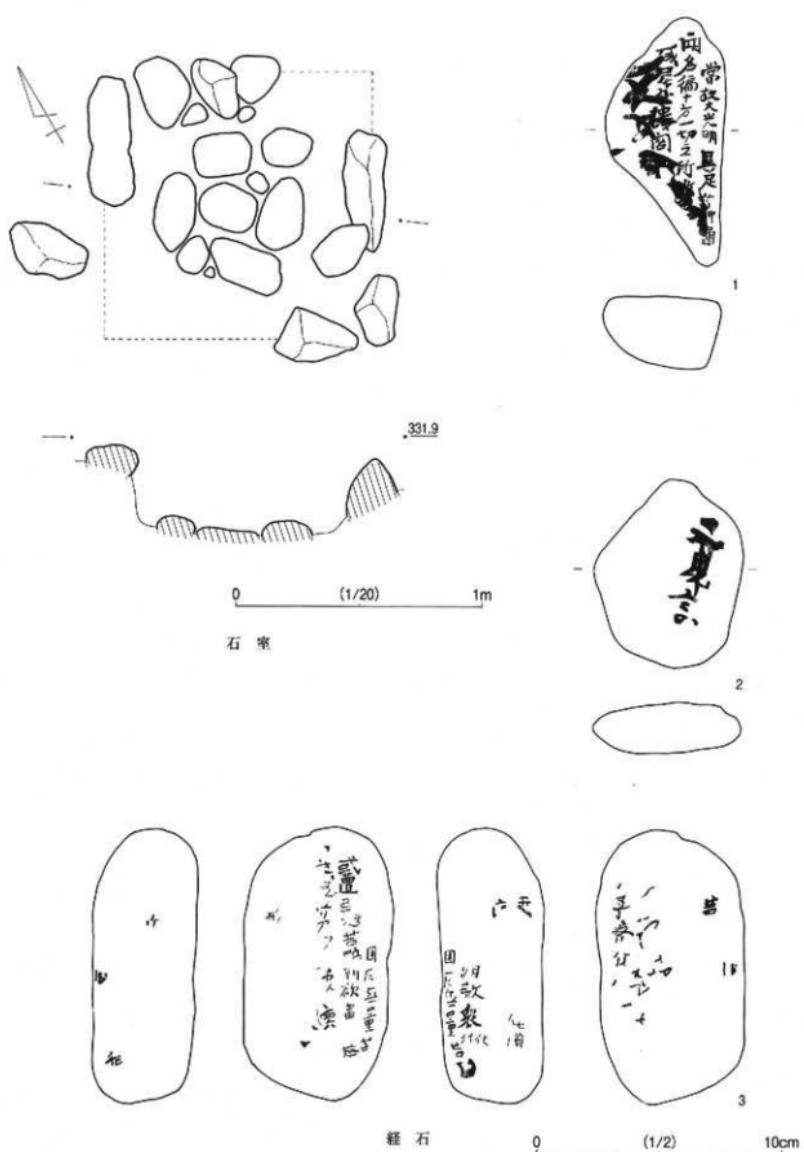
2、複数の墨書き文字が片面に残されているが、判読できない。石は長さ7.7cm・幅6.0cm・厚さ2.1cm・重さ130gである。

3、複数の墨書き文字が表裏及び両側面に残されている。判読は困難だが、わずかに「或遭□□苦□□欲富」と読める。石は長さ11.2cm・幅6.0cm・厚さ4.1cm・重さ425gである。

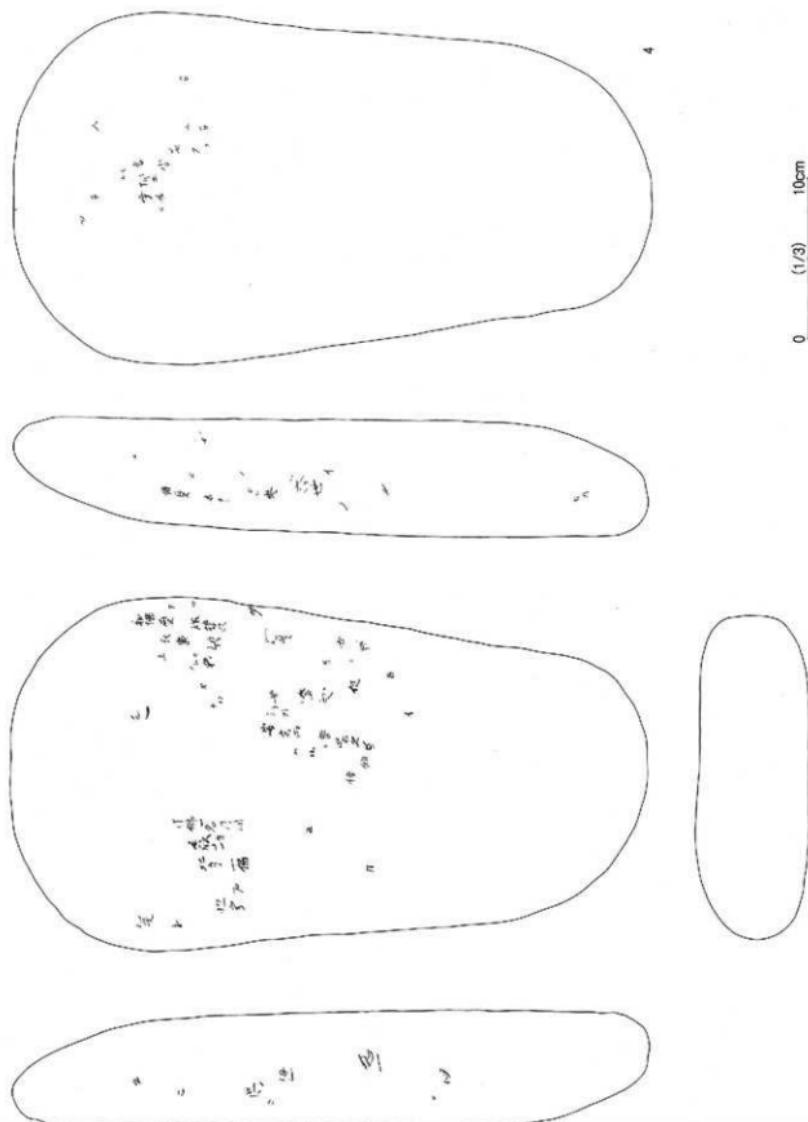
4、複数の墨書き文字が表裏及び両側面に残されている。判読は困難だが、わずかに「□□作佛一名□□」「北方二佛」と読み取れ、法華經二十八品のうち「化城論品第七」を書写した可能性がある。石は長さ39.4cm・幅22.2cm・厚さ7.3cm・重さ10,480gで、經石の中で最大である。



第17図 経碑位置図



第18図 遺構平面・断面図、出土遺物



第19図 出土遺物

8 上野原字上宿地点

調査目的 宅地開発に伴う試掘調査

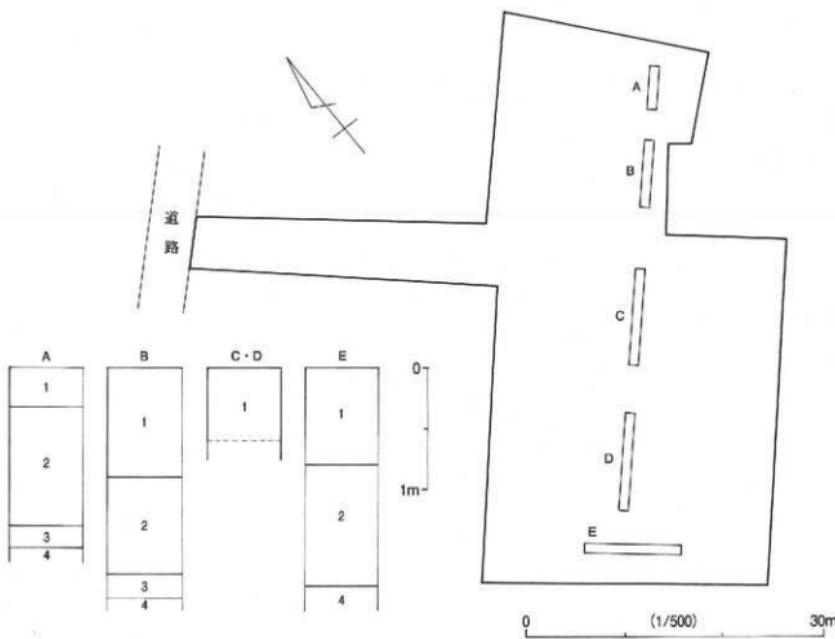
調査地 上野原市上野原字上宿3521、3531

調査期間 平成17年（2005）2月3日

調査面積 41m²（対象面積1,584m²）

概要

調査地点は法務局跡地で、地形は平坦である。標高266m。試掘溝5本を重機で掘り下げた結果、地山ローム面（地表下約2m）まで造成工事による搬入土が広範囲に認められた。搬入土中に縄文土器や土師器の細片が数点混入していたが、他に遺構・遺物は確認されなかった。このため、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



- 1 整地層 砂利・コンクリートを含む。
- 2 黒褐色土 粘性・締まり弱い。搬入土。
- 3 褐灰色土 粘性強く、締まり弱い。第2層との境は漸移的。
- 4 にぶい赤褐色土 ローム。

第20図 調査区平面・土層図

9 西大野遺跡

調査目的 NTT携帯電話基地局建設工事に伴う試掘調査

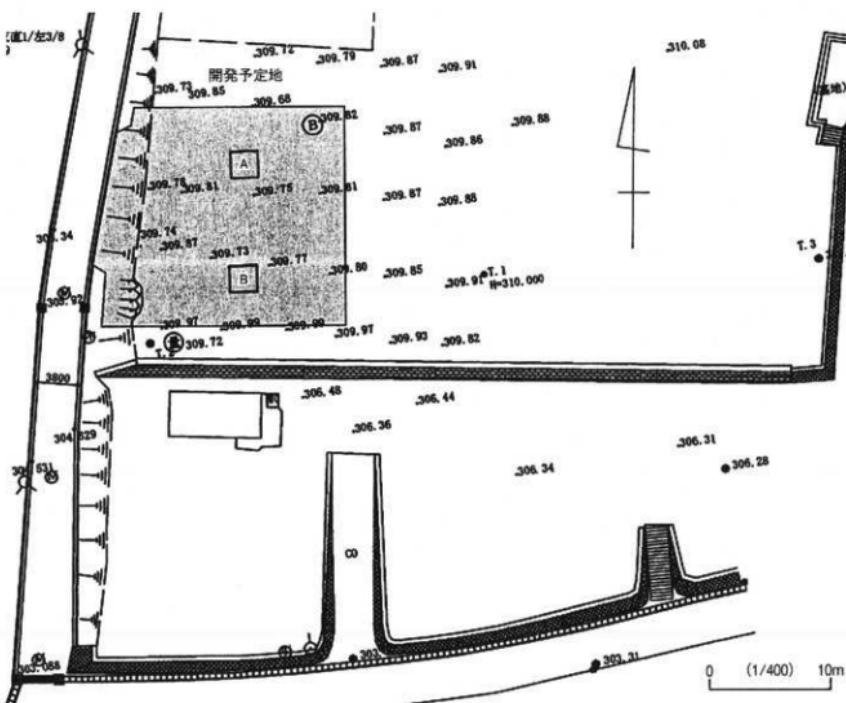
調査地 上野原市大野字峯2369-1

調査期間 平成18年（2006）2月17日

調査面積 8 m² (対象面積400m²)

概 要

西大野遺跡は大野貯水池（発電用調整池）北側の台地に位置し、縄文時代中期の遺物散布地である。調査地点は造成済みの平坦地で、標高309mである。試掘坑を重機で掘り下げる結果、現代ゴミを含む搬入土が最深1.4mまで堆積し、直下がハードローム層であった。遺構・遺物は確認されず、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



第21図 調査区平面図

10 上野原字仲外戸地点

調査目的 宅地開発に伴う試掘調査

調査地 上野原市上野原字仲外戸1698

調査期間 平成18年（2006）4月13日～14日

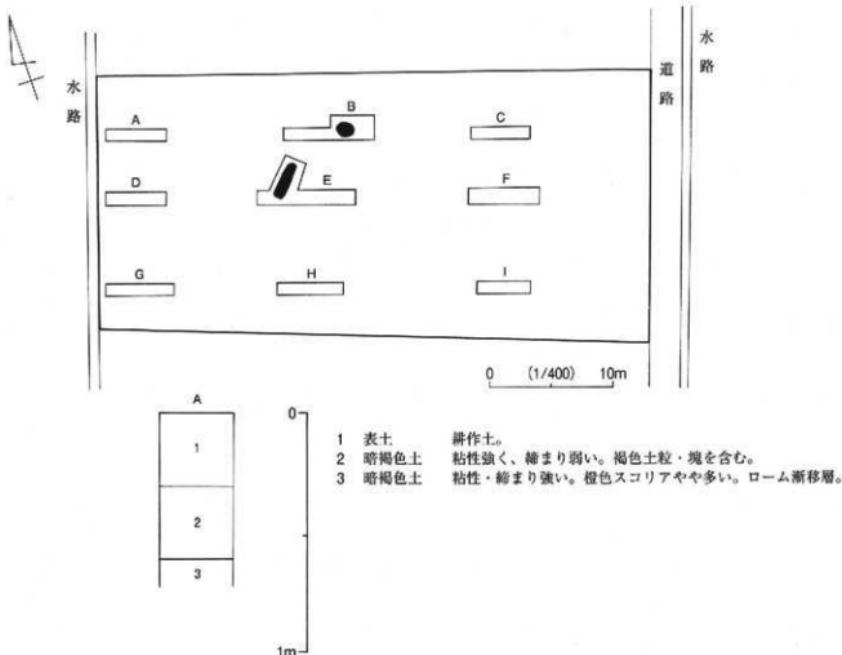
調査面積 55m²（対象面積971m²）

概要

調査地点は畠地で、地形は平坦である。標高255m。試掘溝を重機で掘り下げた結果、基本層序は表土（耕作土）・暗褐色土・地山ローム層で、ローム上面までの深さは概ね60cmであった。遺構は暗褐色土上面で時期不明の土坑2基を検出



した。1号土坑は平面円形で直径1m・深さ10cmを測る。2号土坑は平面溝状で長軸3m・短軸0.55m、深さ38cmを測る。覆土はいずれも黒褐色土の單層であった。遺物は耕作土から縄文土器1点が出土し、表探で土師器4点が得られたのみである。遺構・遺物が希薄なため事業者に慎重工事を指示した。



第22図 調査区平面・土層図

11 狐原Ⅱ遺跡

調査目的 個人住宅建設工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市上野原字木のはけ77-11、77-12、81-4

調査期間 平成18年（2006）4月18日

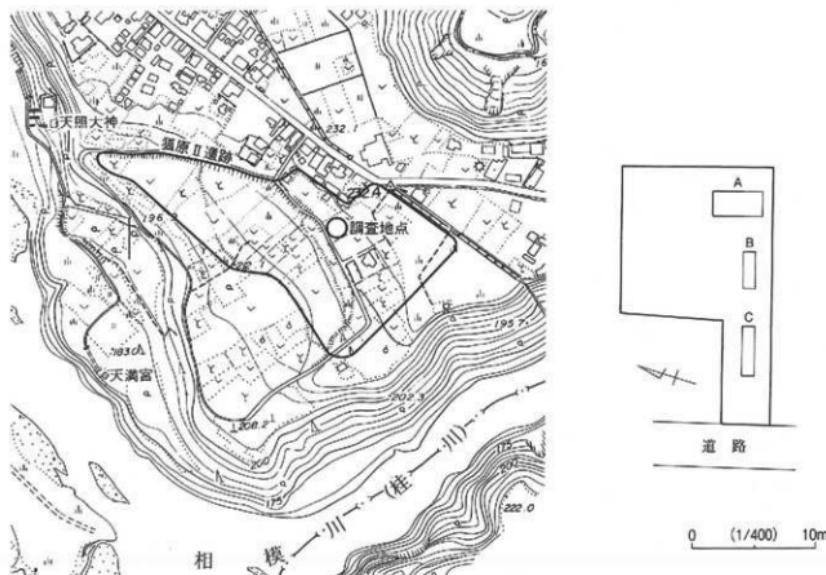
調査面積 15m²（対象面積180m²）

概要

狐原Ⅱ遺跡は桂川北岸の河岸段丘面に位置し、これまでの発掘調査で縄文及び古墳から奈良・平安時代の集落址が検出されている。今回の調査地点は段丘縁辺部で、遺跡の最上位（標高約230m）にあたる。調査時は畠地であった。試掘溝3



本を人力で掘り下げた結果、耕作土直下が地山ローム層で、ローム面は随所で耕作による擾乱を受けていた。遺構は確認されず、遺物は表採の土師器2点のみであった。このことから工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



第23図 調査地点 (1/5000)、調査区平面図

12 狐原Ⅱ遺跡

調査目的 個人住宅建設工事に伴う試掘調査

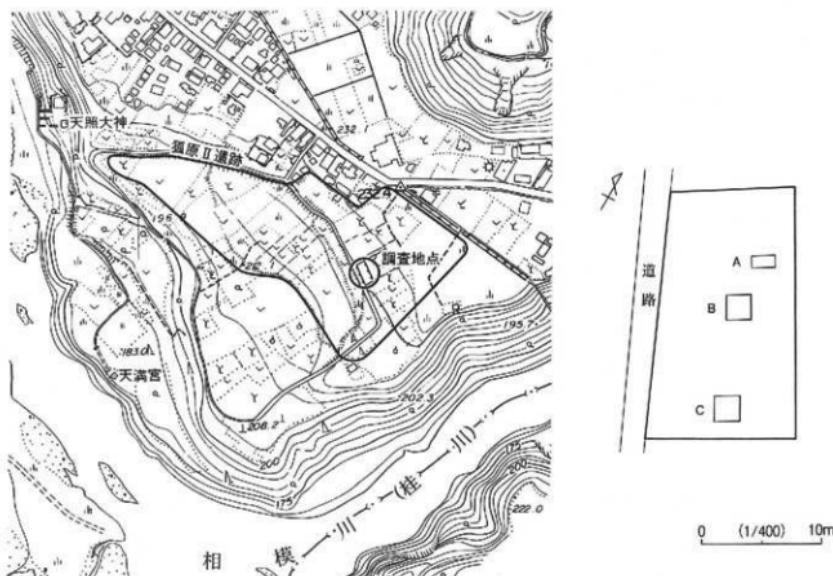
調査地 上野原市上野原字木のはけ76-6、76-8

調査期間 平成18年（2006）4月28日

調査面積 10nf（対象面積271nf）

概要

調査地点は造成済みの平坦地であった。試掘坑3ヶ所を人力で掘り下げた結果、表土直下が地山ローム層で、遺構・遺物は確認されなかった。このことから工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



第24図 調査地点（1/5000）、調査区平面図

13 新屋原遺跡

調査目的 県道棚原藤野線改築工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市棚原字新屋3549~3577-1

調査期間 平成18年（2006）7月20日

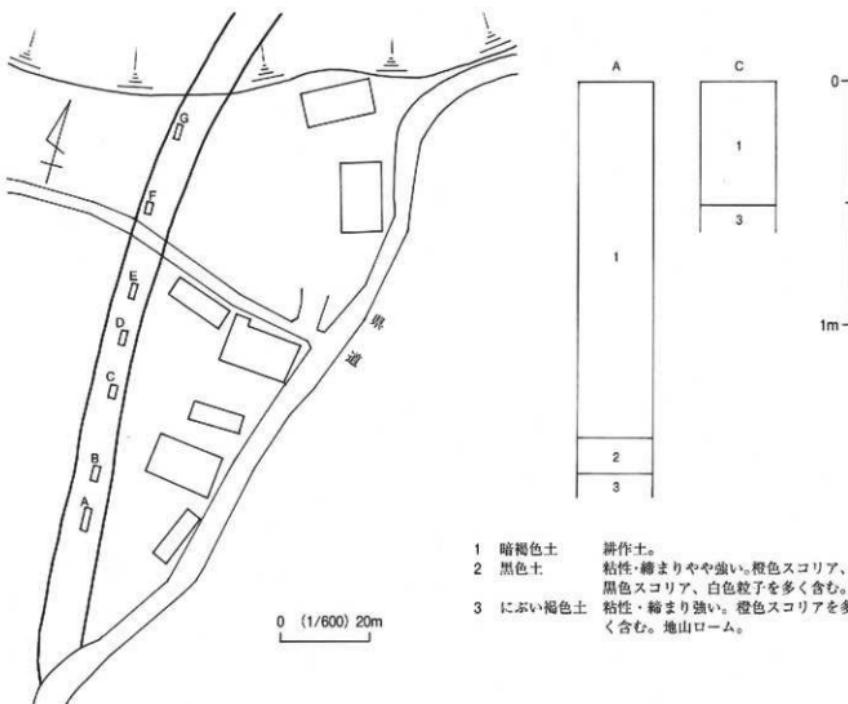
調査面積 28m²（対象面積527m²）

概要

新屋原遺跡は生藤山（990.6m）南西麓に位置し、これまでの発掘調査で縄文時代早期後半から前期の竪穴住居址・竪穴状造構・炉穴・土坑などが検出されている。今回の調査地点は山際斜面地で、遺跡の最上位（標高約447m）にあたる。



調査時は畠地であった。試掘溝7本を重機で掘り下げた。層序は調査区南側の山際で厚い表土下に黒褐色土層が堆積していたが、他では耕作土直下が地山ローム層で、ローム面は随所で耕作による搅乱を受けていた。遺構・遺物は確認されず、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



第25図 調査区平面・土層図

14 根本山遺跡

調査目的 個人住宅建て替え工事に伴う試掘調査

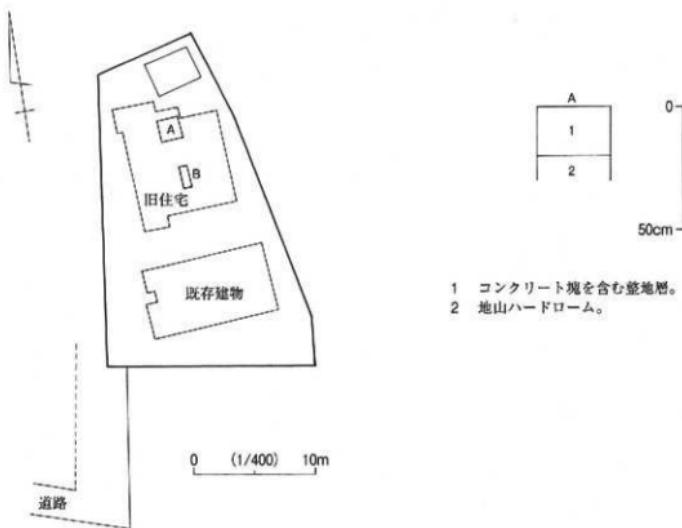
調査地 上野原市上野原字新町1397、1398-2

調査期間 平成18年（2006）8月4日

調査面積 6 m²（対象面積354m²）

概要

根本山遺跡は市街地背後の根本山（標高322m）南斜面に位置し、縄文・平安時代の遺物散布地である。調査地点は遺跡南端（標高約270m）で、調査時は住宅が撤去され更地となっていた。試掘坑を人力で掘り下げる結果、搬入土直下がハードローム層で、遺構・遺物は確認されなかった。このため工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。

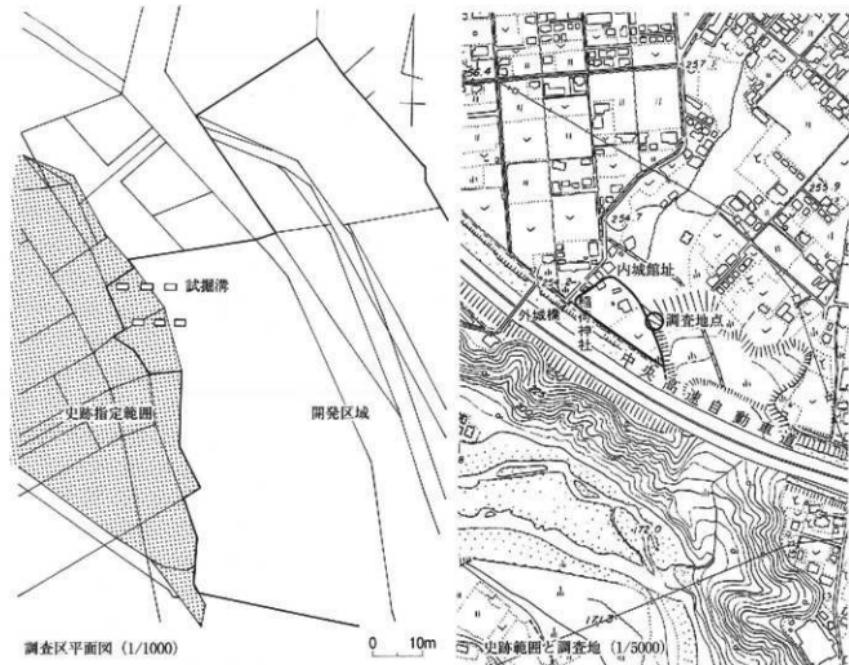


第26図 調査区平面・土層図

15 内城館址

調査目的 大型店舗「オギノ」建設工事に伴う試掘調査
調査地 上野原市上野原字稻荷原1929-2、1929-3、
1938-1
調査期間 平成18年（2006）9月15日
調査面積 52m²（対象面積11,876m²）
概要

内城館は河岸段丘南端に位置する。昭和50年発刊の上野原町誌によれば、館は康治年中（1142～1143）、古郡忠重によって築かれた。中世戦国期にかけて古郡氏及び加藤氏の居館として上野原支配の拠点となった。昭和44年、館跡一帯を中央自動車道が通り、谷や空堀は埋め立てられ往時の面影はない。わずかに残された館跡の北端部は、昭和45年、町史跡に指定された。今回の調査地点は史跡指定区域に隣接し、谷の埋め立て地である。試掘溝6本を重機で最深1.6m（標高249.481m）まで掘り下げたが、礫を主とする撤入土が深くまで続く状況であった。



第27図 調査地点

16 松留字金沢地点

調査目的 店舗「セブンイレブン」上野原松留店新築工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市松留字金沢285-1、287-1、288-1

調査期間 平成18年（2006）10月30日

調査面積 52m²（対象面積1,533m²）

概要

調査地点は鶴川西岸に位置し、県道新田・松留線に面した平坦な畑地であった。標高180m。試掘坑を重機で深さ1mまで掘り下がったが、現代ゴミを含む搬入土が広範囲で確認され、工事予定地が近現代の造成地であることを確認した。遺構遺物はなく、遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



第28図 調査区平面・土層図

17 当月遺跡

調査目的 個人住宅建て替え工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市四方津字当月916

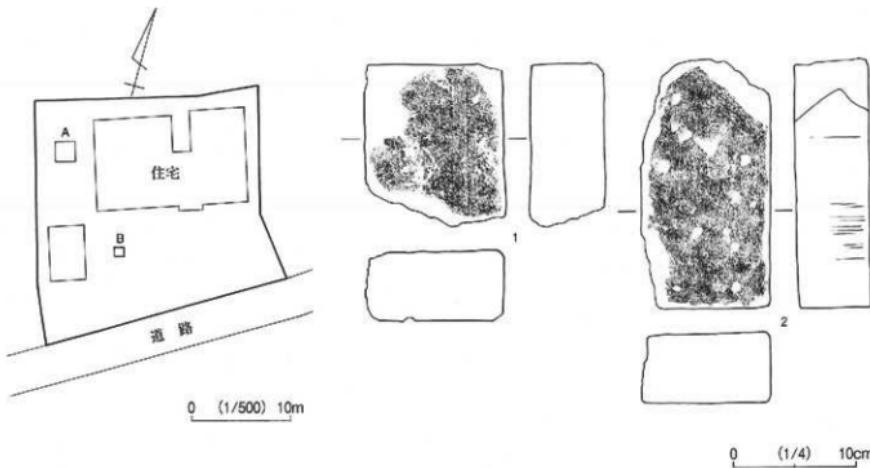
調査期間 平成18年（2006）11月9日

調査面積 5 m² (対象面積502m²)

概要

当月遺跡は桂川北岸の河岸段丘面に位置し、縄文時代の遺物散布地である。調査地点は山際の宅地で、標高約253m。

住宅の庭先を工事掘削予定の地下50cmまで掘り下げたが、すべて整地層のため慎重工事の指示とした。なお、赤煉瓦が数点出土した。このうち第29図1は胎土が粗雑な手抜き成形、同図2は胎土が精選された機械抜きである。1は明治時代に付近で操業した中央線鉄道建設用煉瓦工場から発生した余剰煉瓦であろう。



第29図 調査区平面図、出土遺物

番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	焼成	色調	備考
1	(133)	112	57	1075	良	Hue2.5YR5/4 にぶい赤褐色	平二面に調整痕。胎土に砂粒多く含む (最大1.5cm)。
2	(150)	109	58	1700	良	Hue2.5YR6/6 橙色	平二面に縮緬状のしわ。平一面に小判型の縁取りをもつ刻印。胎土は精選。

煉瓦観察表

18 牧野遺跡

調査目的 個人住宅建て替え工事に伴う試掘調査

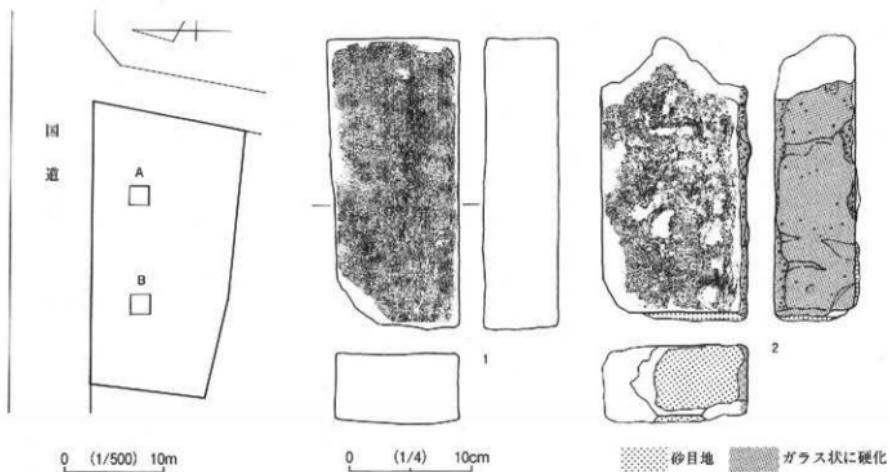
調査地 上野原市四方津字牧野道下439-11、442-1

調査期間 平成19年（2007）1月19日

調査面積 8 m²（対象面積379m²）

概要

牧野遺跡は桂川北岸の河岸段丘面に位置し、縄文時代前期・中期の遺物散布地である。調査地点は国道20号沿いの宅地で、住宅が撤去され更地となっていた。標高約255m。試掘坑を工事掘削予定の地下30cmまで掘り下げたが、すべて整地層のため慎重工事の指示とした。なお、赤煉瓦が数点出土したが、これは明治時代に付近で操業した中央線鉄道建設用煉瓦工場から発生した余剰煉瓦であろう（第30図、図版7）。



第30図 調査区平面図、出土遺物

番号	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	焼成	色調	備考
1	235	108	55	2280	良	Hue2.5YR5/3にぶい赤褐色	平二面に調整痕。胎上に砂礫多く含む。湾曲変形。
2	(225)	111	55	1950	良	Hue2.5YR5/3にぶい赤褐色	小口及び平二面に砂目地が付着。長手一面に自然釉。胎上に砂礫多く含む。

煉瓦観察表

19 大目新田遺跡

調査目的 県道大月上野原線道路改良工事に伴う試掘調査

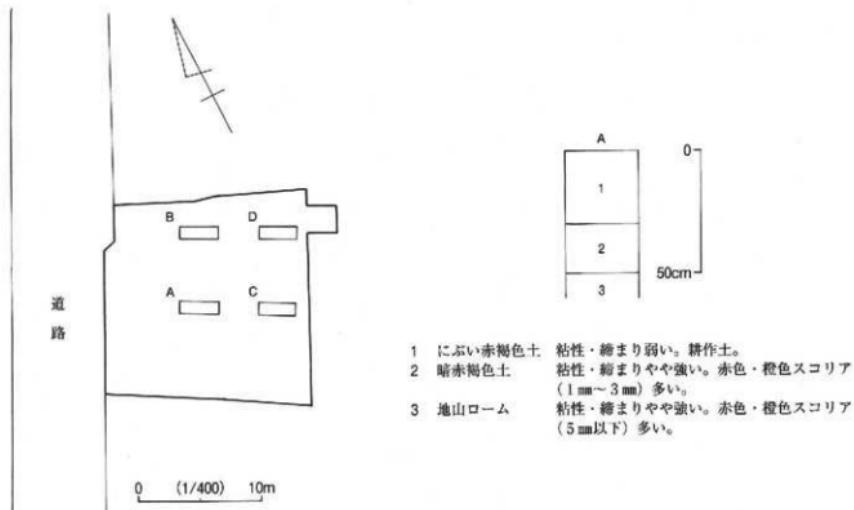
調査地 上野原市大野字大平5705

調査期間 平成19年（2007）6月7日

調査面積 12nf (対象面積240nf)

概要

大目新田遺跡は扇山（1,137.8m）南東麓に位置し、縄文時代中期の遺物散布地である。調査地点は県道下の斜面で、調査時は畠であった。標高は約476mである。試掘溝4本を人力で掘り下げた結果、基本層序は表土・暗赤褐色土・地山ローム層で、遺構・遺物は確認されなかった。このため、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



第31図 調査区平面・土層図

20 上野原字寺畠地点

調査目的 ウェルネス薬局上野原店新築工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市上野原字寺畠4114、4115、4115-2

調査期間 平成19年（2007）7月26日

調査面積 45m²（対象面積878m²）

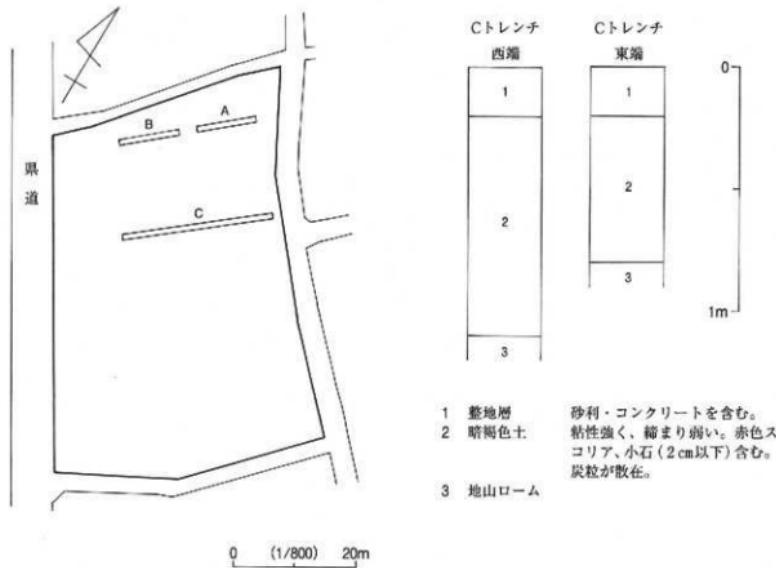
概要

調査地点は鶴川東岸の河岸段丘上に位置し、県道上野原・あきる野線沿いの店舗跡地である。背後の丘陵から延びる緩やかな斜面を平坦に造成した土地で、標高は約276mである。



試掘溝3本を重機で掘り下ろした結果、基本層序は整地層・

暗褐色粘質土・地山ローム層であり、粘質土は県道側に向けて層厚を増していた。遺構・遺物は確認されず、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



第32図 調査区平面・土層図

21 松留遺跡

調査目的 イー・モバイル上野原松留局新設工事に伴う試掘
調査

調査地 上野原市松留字伊勢下863番地

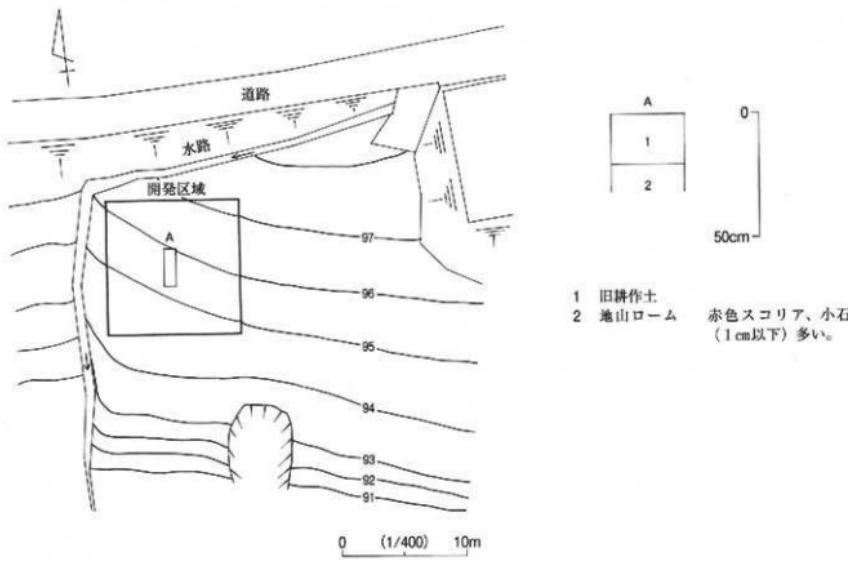
調査期間 平成19年（2007）11月8日

調査面積 3 m²（対象面積30m²）

概要

松留遺跡は松留集落の南側に位置し、縦文時代後期の遺物散布地である。調査地点は桂川北岸の緩やかな斜面で、現況は雑草地であった。標高は約241mである。試掘溝1本を人

力で掘り下げた結果、表土直下が地山ローム層で、遺構・遺物は確認されなかった。このため、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



第33図 調査区平面・土層図

22 新町遺跡

調査目的 宅地造成工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市上野原字新町1454-1、1454-2、1455

調査期間 平成20年（2008）2月20日～21日

調査面積 50m²（対象面積970m²）

概要

新町遺跡は河岸段丘面に位置し、丘陵谷部の下方に当たる。

縄文時代中期の遺物散布地であるが、発掘調査の事例はない。

調査地点は国道20号北側の市街地に位置し、工場や住宅があつたが、調査時には建物が撤去され駐車場などになっていた。標

高は約267mである。工事予定地に6本の試掘溝を設定して重機で掘り下げた。調査の結果、整地層や旧耕作土（層厚30~40cm）下は全般に粘土質の土壤で、砂や黒色スコリアが層状に介在する。地山はローム層である。Fトレンチでは表土下に砂利の堆積層が溝状に確認され、摩滅した縄文土器片が多量に出土した。土器は縄文時代中期中葉から後期前葉に属す。遺物は谷筋に形成された自然流路への流れ込みと思われる。これ以外では縄文土器や土師器の細片がわずかに出土した。縄文土器が集中したFトレンチでは掘削の範囲が遺物層に達しない部分で行われる計画であったが、念のため工事立会いを実施した。これ以外では造構・遺物分布が希薄なため慎重工事の指示とした。

出土遺物（第35図、図版8）

1~24は縄文土器で、全般に磨滅している。

1・2、隆帶に沿ってキャタピラ文や三角押文が施される。3、内湾口縁で、双孔把手が付いていたものと思われる。把手下に隆帯が派生する。隆帶上及び隆帶に沿ってキャタピラ文、隆帶区画内は集合沈線や半隆帶による楕円文が配される。4、環状把手で、孔の周りを太沈線で開む。5~8は縄文が施される。5、半隆帶に沿って半截竹管による連続刺突文、隆帶上の一帯に連続爪形文が施される。6、わずかに肥厚した口縁部に縄文が施される。7は縱位、8は斜位の縄文である。

9、大型深鉢の頸部と思われ、太い隆帯が施される。10・11は条線地である。10、2本1組の隆帯が弧状に施され、これに幅広の沈線が沿う。11、幅広の沈線文で区画される。12・13は口縁から幅広の沈線区画をもち、13の区画内は短沈線が疎らに施される。14、沈線区画内に刺突文が施される。15~17は縄文が施され、15は2本1組の隆帶、16は波状の沈線文が伴う。

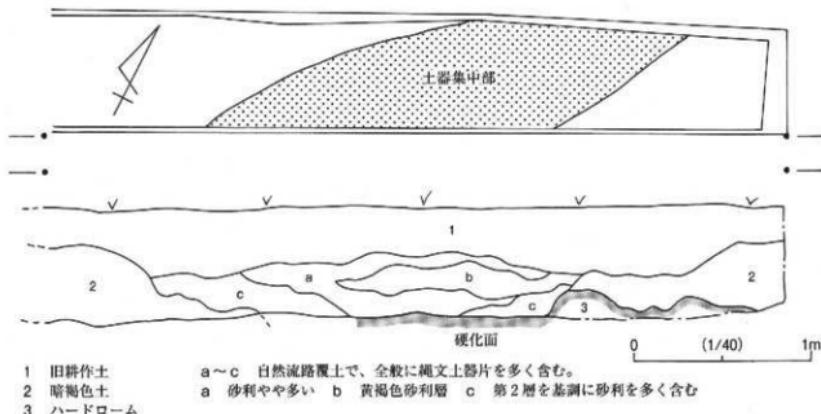
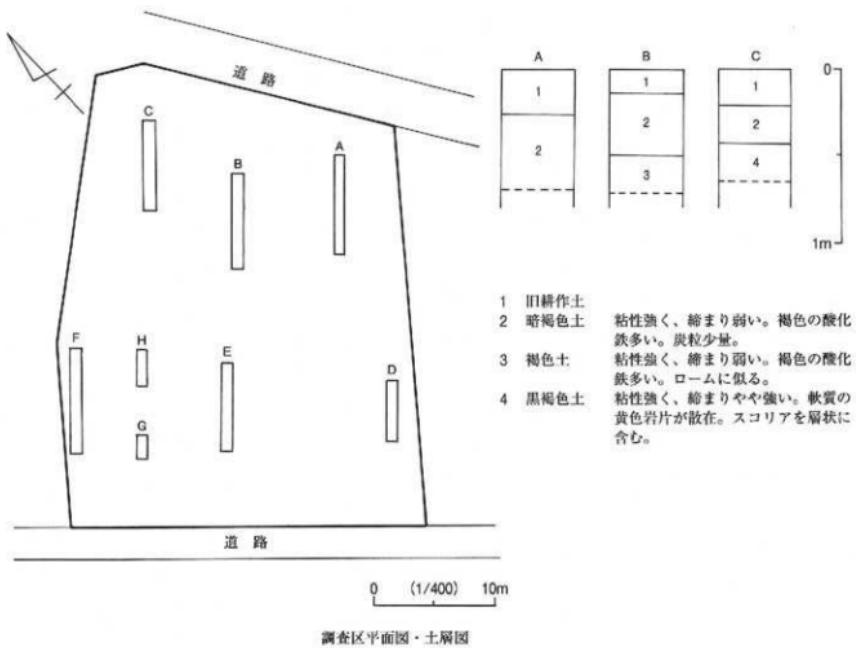
19・20、内折する口縁部に沈線文や刺突文による文様帯が配される。胴部上位に横位の沈線が認められる。21・22、緩く括れた胴部に縦位の沈線文が施される。23、刻みの入った隆帯を中心に、集合沈線が同心円状に配される。24、胴上半部に沈線区画の帯縄文が配される。

25は土製円盤である。平面は円形基調で、周縁は丸く磨滅する。

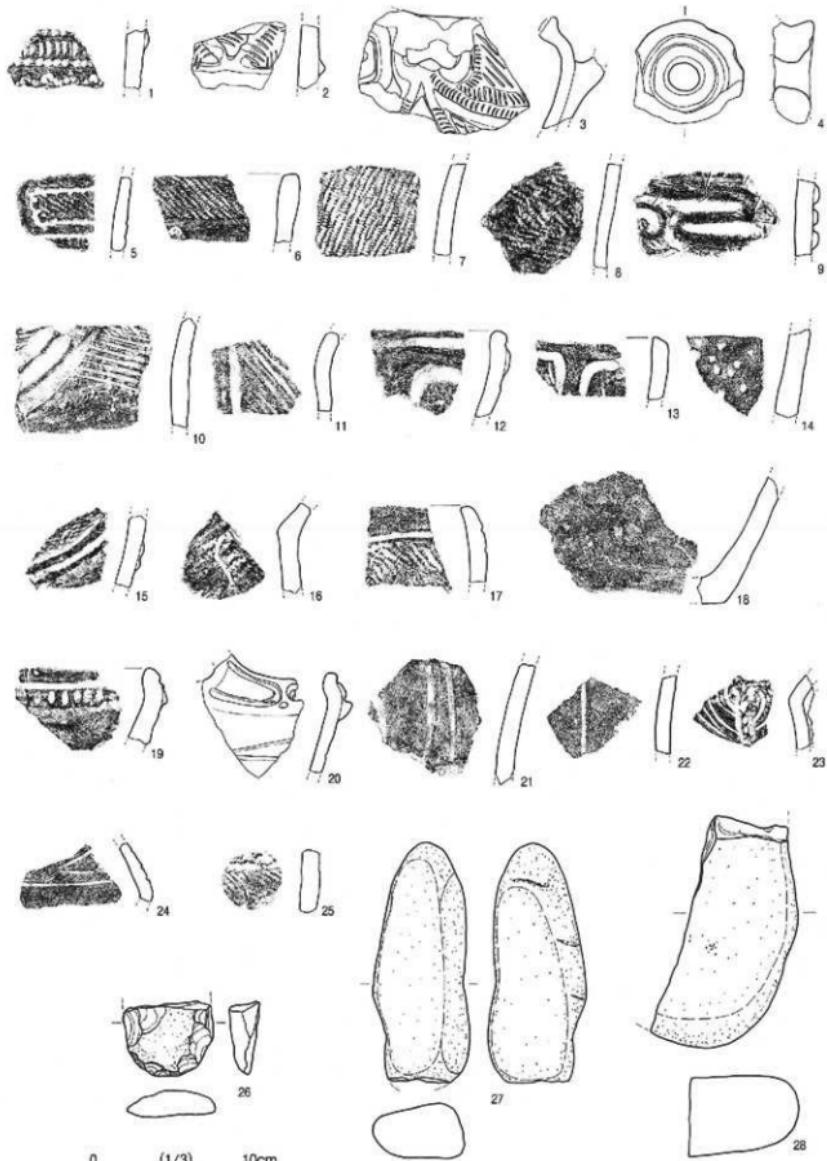
26~28は石器である。26は打製石斧の破片。長さ4.4cm・幅5.4cm・厚さ1.5cm、重さ40g。粗粒砂岩。27は磨石類で、棒状砾の両側に平滑な磨面をもつ。長さ14.6cm・幅5.4cm・厚さ3.6cm、重さ500g。砂岩。28は台石で、両側に平滑な磨面をもつ。長さ14.0cm・幅6.6cm・厚さ5.0cm、重さ814g。石英閃綠岩。

以上のうち、1~8は中期中葉・藤内式期、9~18は中期後葉・曾利式期、19~24は後期前葉・堀之内式に比定される。25は中期中葉から後葉、石器も概ね土器と同じ時期と思われる。出土地点は22・28がAトレンチ、他は全てFトレンチの土器集中部である。





F トレンチ平面・土層図
第34図 調査区平面・土層図、Fトレンチ



第35図 出土遺物

23 根本山遺跡

調査目的 宅地開発工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市上野原字新町1393-1

調査期間 平成20年（2008）7月7日～9日

調査面積 6 m²（対象面積120m²）

概要

根本山遺跡は市街地背後の根本山（標高322m）南麓に位置し、縄文・平安時代の遺物散布地である。工事予定地の大半が旧養鶏場の跡地で、斜面を雑段状に造成した土地であったため、試掘調査は旧地形が残る雑草地120m²を対象とした。

調査地点の標高は270mである。



試掘坑2ヶ所を人力で掘り下げる結果、表土下に縄文土器を含む黒褐色土が堆積し、地山ローム層上面で平面方形の遺構1基を確認した。遺構は確認段階に止めたため詳細は不明だが、一辺の確認長は40cmを測る。覆土は黒褐色土である。遺物は遺構内外から縄文土器の破片が出土した。土器は無文や沈線文が多く、縄文時代中期中葉から後期前葉に比定される。

結果を踏まえ遺跡の保存について事業者と協議した結果、遺跡の深度が地下1.6mと深いうえ、盛土が予定されていたことから、工事計画では遺跡の保存に影響はないものと判断した。ただし、擁壁を建設する際に工事立会いを行った。

出土遺物（第36図、図版8）

Bトレンチで縄文土器が出土した。

1、深鉢口縁で無文。胎上は砂粒や細かな金雲母を含む。色調は黒褐色で、焼成は良い。II層出土。

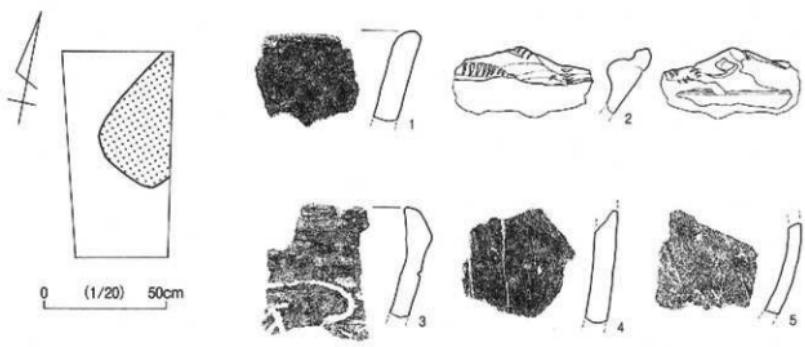
2、浅鉢で、口縁部に渦巻状の隆帯が配される。隆帯に沿ってキャタピラ文や三角押文が施される。色調はにおい褐色で、焼成は良い。I層出土。

3、屈曲的な沈線区画内に列点文が施される。II層出土。

4、深鉢胴部に浅く細い沈線文が施される。II層出土。

5、張りのある深鉢胴部で無文。遺構覆土出土。

以上のうち、1・2は中期中葉から後葉、3～5は後期・称名寺II式から堀之内式に比定される。



第36図 調査区平面・土層図、遺構確認状況、出土遺物

24 新井遺跡

調査目的 墓地造成工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市上野原字新井4524

調査期間 平成20年（2008）8月5日

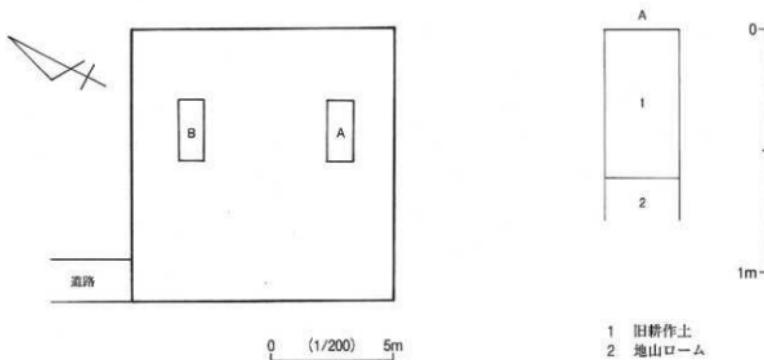
調査面積 5 m² (対象面積107m²)

概要

新井遺跡は鶴川東岸の河岸段丘面に位置し、これまでに縄文時代早期の土器や平安時代の竪穴住居等が確認されている。

今回の調査地点は鶴川に面した段丘縁辺部で、標高270m。

雑草地であった。試掘溝2本を人力で掘り下げた結果、表土下が地山ローム層で、遺構・遺物はなかった。このため工事予定地に遺跡が存在する可能性は低いものと判断した。



第37図 調査区平面・土層図

25 根本山遺跡

調査目的 宅地開発工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市上野原字セッタイ1295-1、1296-1、

1296-2、1297-1

調査期間 平成20年（2008）8月26日～29日

調査面積 61m²（対象面積410m²）

概要

調査地点は根本山（標高321m）南麓に位置する。根本山は市街地の背後にあり、小高い丘という表現がふさわしい。

昭和初期には縄文土器や土師器の散布地として知られていた。

今回工事予定地の大半は雑草が広がる斜面地で、南側に隣接して小さな湧水池（弁財天池）がある。標高は264m～270mである。

試掘調査は工事予定地1,547m²のうち掘削範囲410m²を対象に実施した。幅1m・長さ6～15mの試掘溝6本を重機で掘り下げた。基本層序は調査区東側で表土（層厚20cm）直下が地山ローム層であったが、西側の谷部に向けて表土下の粘質土が厚みを増して堆積し、Eトレンチでは最深160cmまで掘り下げたが、粘質土がさらによ下まで続く状況であった。

遺構は古代の堅穴住居址1軒が調査区東端のローム層上面で確認された（第38図、図版2）。住居の平面は1辺2mの方形と推定され、北辺に石と白色粘土からなるカマドがある。遺物は住居覆土から土師器片が7点出土した。住居は短い煙道を持つことや、出土した土師器盤状壺から奈良時代前半期のものと推定される。

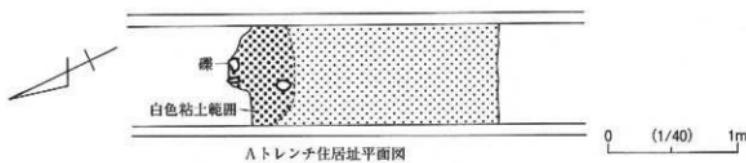
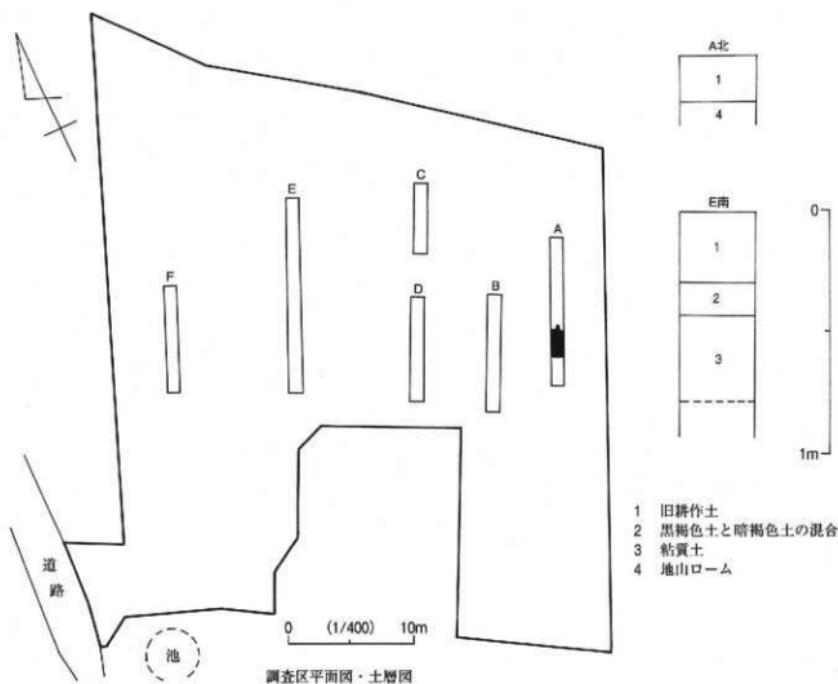
結果を踏まえて住居址発見地点を中心に根本山遺跡の範囲を追加した（上野原1296-2、1297-1）。住居址は試掘確認に止め、工事設計を変更したうえで保存措置を探った。

出土遺物（第38図、図版8）

1、土師器盤状壺の底部。内外面に赤彩が施される。内外面と割れ口は部分的に煤け、内面はあばた状に剥落している。

2、土師器壺の底部。外面へラ削り。外面は煤けて剥落が目立つ。





第38図 調査区平面・土層図、遺構確認状況、出土遺物

26 大浜遺跡

調査目的 NTTドコモ携帯電話基地局建設工事に伴う試掘
調査

調査地 上野原市鶴川字薙ヶ崎1130、1130-1

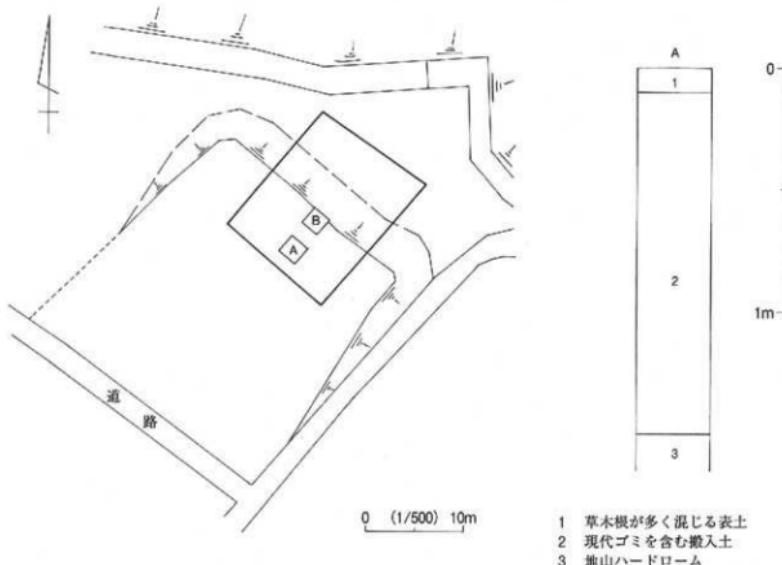
調査期間 平成21年（2009）1月29日

調査面積 8 m² (対象面積200m²)

概要

大浜遺跡は鶴川西岸に張り出した尾根状の河岸段丘面に位置する。平成5年（1993）、工業団地造成のため広範囲で発掘調査が実施され、縄文時代中期の竪穴住居址3軒等が検出

された。今回の調査地点は尾根北側の緩やかな斜面地で、調査時は草木が茂っていた。標高は約303mである。鉄塔建設予定地に試掘坑2ヶ所を設定し、人力で掘り下げた。この結果、現代ゴミを含む搬入土が1.4mの厚さで堆積し、直下に地山ハードローム層が確認された。遺構・遺物は確認されず、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



第39図 調査区平面・土層図

27 上野原字上宿地点

調査目的 市立病院新築工事に伴う試掘調査

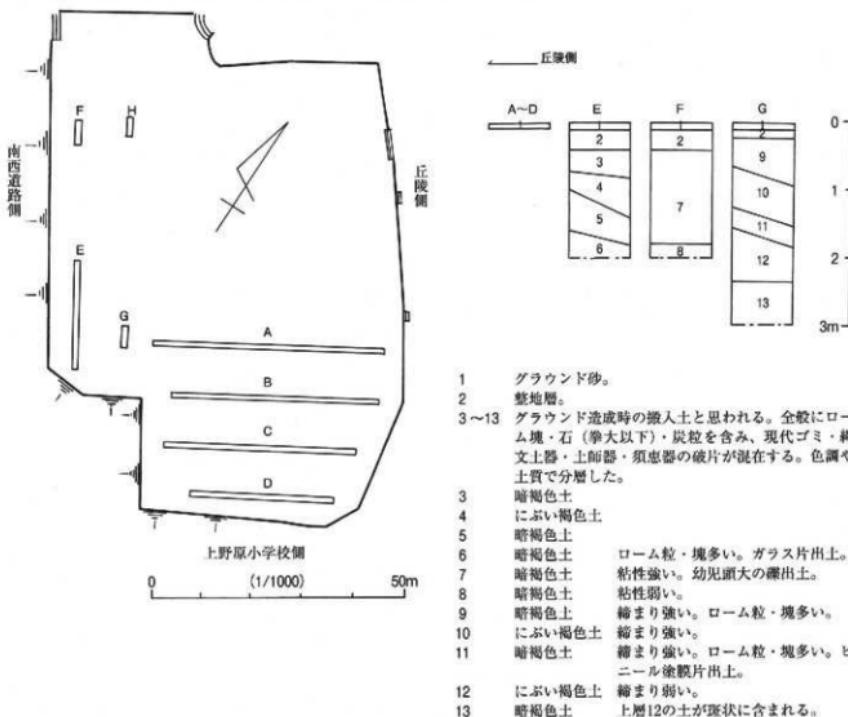
調査地 上野原市上野原字上宿3504

調査期間 平成21年（2009）2月16日～18日

調査面積 187m²（対象面積6,000m²）

概要

調査地点は丘陵の南西麓に位置する旧上野原中学校グラウンド（昭和30年完工）で、標高は約270mである。グラウンドは丘陵を背にして造成され、南西側は道路より1.8m～2.2m高く石積みされていた。調査はグラウンドの小学校側と南西道路側を重点に実施した。この結果、小学校側では全般にグラウンド表層直下でハードローム層が確認され、遺構・遺物はなかった。南西道路側では、グラウンド造成時の撤入土が2m以上の厚さで確認された。最も深い所で掘削限界の地下3mまで掘り下げたが、撤入土が続き、地山ローム層には至らなかった。撤入土中から縄文土器や土師器・須恵器の破片が現代ゴミに混じって出土した。このため遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



第40図 調査区平面・土層図

28 上野原字外城地点

調査目的 宅地造成工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市上野原字外城2164

調査期間 平成21年（2009）3月11日

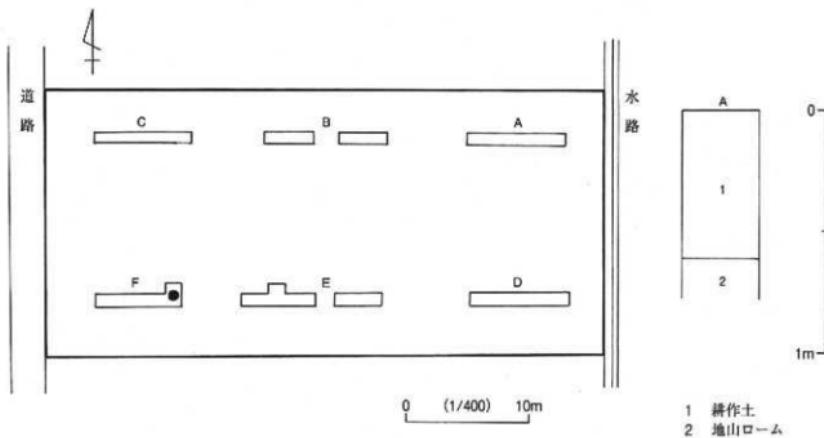
調査面積 49m²（対象面積985m²）

概要

調査地点は桂川北岸の河岸段丘面に位置する。調査地点は平坦な畑地で、標高約270mであった。試掘溝を重機で掘り下げた結果、表土直下が地山ローム層であった。出土遺物はなく、遺構はローム層上面で土坑1基を確認した。検出の結



果、平面は直径1mの円形で、深さ16cmであった。壁はほぼ垂直で底面は平坦であった。覆土は地山ローム粒・塊を含む黒褐色土の単層で、遺物はなかった。遺構の時期は不明である。遺構や遺物が希薄なため、事業者に慎重工事を指示した。



第41図 調査区平面・土層図

29 狐原Ⅱ遺跡

調査目的 個人住宅建設工事に伴う試掘調査

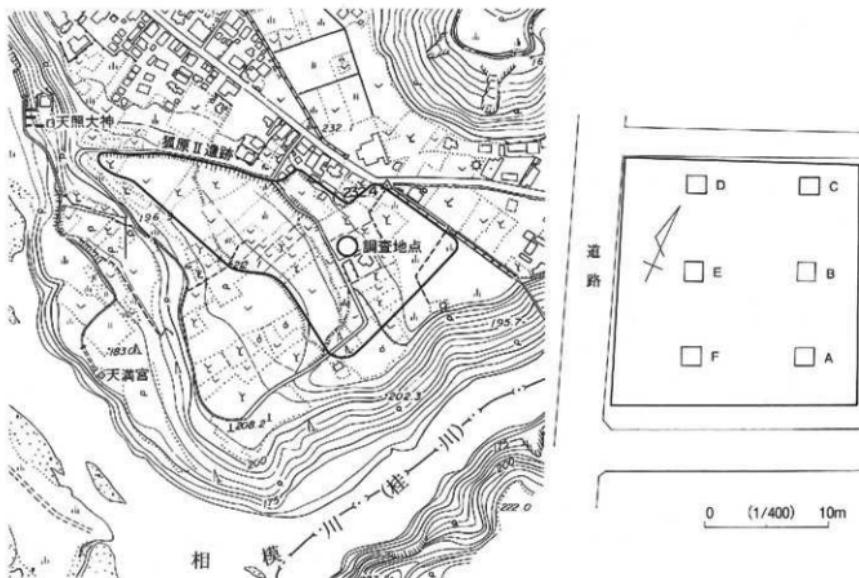
調査地 上野原市上野原字木のはけ78-3

調査期間 平成21年（2009）4月22日

調査面積 24m²（対象面積387m²）

概要

調査地点は段丘縁辺部に位置し、遺跡の最上位（標高約230m）にあたる。調査時は畠地であった。2m四方の試掘坑6ヶ所を人力で掘削した結果、耕作土（層厚約15cm）直下が地山のローム層で、ローム面は隨所で耕作による搅乱を受けていた。遺構・遺物は確認されなかった。このことから工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



第42図 調査地点 (1/5000)、調査区平面図

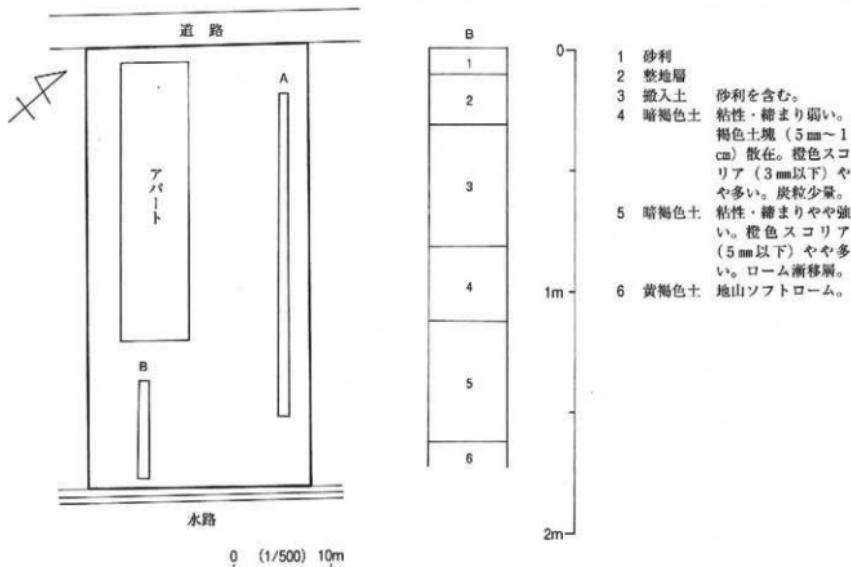
30 上野原字六貫目地点

調査目的 宅地造成工事に伴う試掘調査
 調査地 上野原市上野原字六貫目3793-1
 調査期間 平成21年（2009）8月27日
 調査面積 43m²（対象面積981m²）

概要

調査地点は桂川北岸の河岸段丘面に位置する。木造2階建てアパートの敷地で、標高は約268mである。近接して奈良・平安時代の集落址である大間々遺跡がある。

試掘溝を重機で掘り下げた結果、敷地造成時の搬入土や地山ロームに達する擾乱が広範囲に確認された。遺構・遺物は発見されず、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



第43図 調査区平面・土層図

31 日留野遺跡

調査目的 NTT ドコモ携帯電話基地局建設工事に伴う試掘

調査

調査地 上野原市大野字日留野6607番1

調査期間 平成21年（2009）12月9日

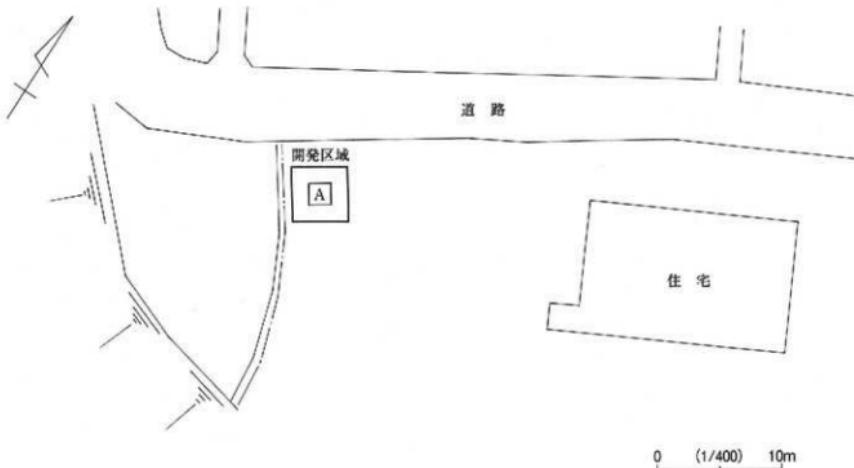
調査面積 4 m²（対象面積25m²）

概要

日留野遺跡は谷田川北岸の河岸段丘面に位置する。昭和50年（1975）、遺跡中央部を通る町道拡幅工事の際に縄文時代中期の竪穴住居や後期の敷石遺構、土器・土偶・土製円盤・



石器などの遺物が発見された。今回の調査地点は段丘縁辺部の畠地で、西側の石垣を境に隣接地より1m低くなっていた。標高は約344mである。2m四方の試掘坑1ヶ所を人力で掘り下げた結果、耕作土と地山ハードローム層との間に現代ゴミが混じる堆入土が介在していた。遺構・遺物はなかった。土地所有者の話によると、調査地点には中央自動車道建設工事時に仮設の工事事務所が建てられていたとのことであり、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



第44図 調査区平面図

32 上野原字関山地点

調査目的 セブンイレブン上野原インター北店新築工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市上野原字関山754、755、755-2の一部

調査期間 平成22年（2010）2月15日～16日

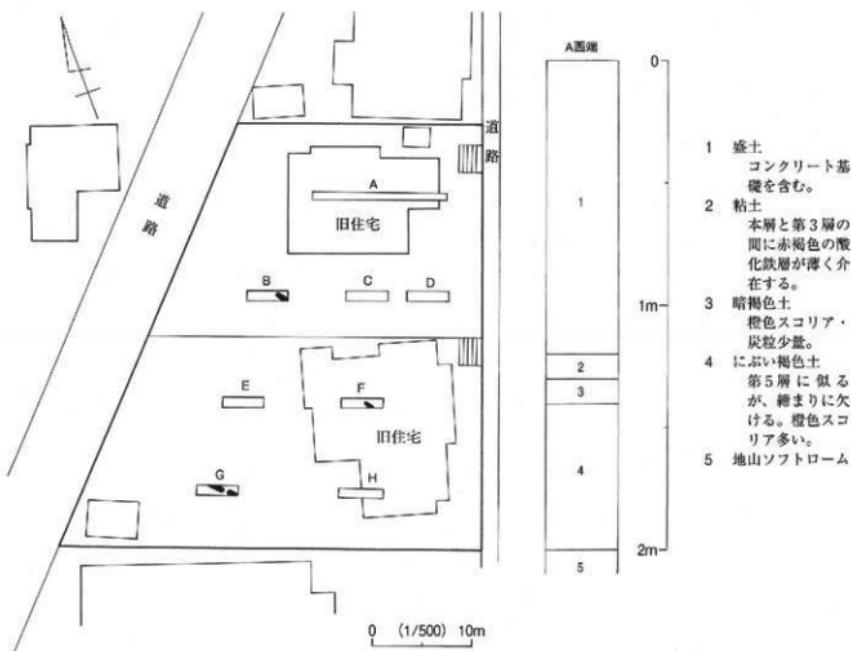
調査面積 42m²（対象面積1,498m²）

概要

調査地点は桂川北岸の河岸段丘面に位置し、県道四日市場上野原線沿いの住宅跡地であった。標高は約254mである。



試掘溝を重機で掘り下げた。遺構・遺物の確認は表土（盛土）下の暗褐色土層で行ない、廃土中でも遺物の確認作業を行った。この結果、ローム層上面で近現代の耕作溝あるいは芋穴類と考えられる溝状遺構を4ヶ所で確認した。遺構の短軸は36cm～47cm、長軸は最長190cm以上を測り、主軸はいずれも北西から南東方向（N20°～40°W）であった。深さは30cm～36cmで、断面は平坦な底面から丸く立ち上がって垂直な壁へ続く。覆土は暗褐色の単層で縦に欠けた。遺物はなかった。他に遺構・遺物がなかったことから事業者に慎重工事を指示した。



第45図 調査区平面・土層図

33 内城館址

調査目的 高齢者介護施設建設工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市上野原字外城2144

調査期間 平成22年（2010）4月27日～28日

調査面積 42m²（対象面積1,032m²）

概要

調査地点は内城館址の北方50mに位置し、現況は駐車場であった。標高254m。試掘溝を重機で掘り下けた結果、地表下60～70cmの暗褐色土上面でピット3基を確認した。

Eトレンチのピット（第47図、図版2）は、平面が長軸40cm・短軸35cmの不整円形で、深さ50cmまでの検出に止めた。内部から柱の根固めに用いられたと思われる硬質土塊や棒状礫（長さ約15cm）が検出され、土壤中に貝殻の破片が多数含まれていた。

C・Fトレンチのピット（第47図）は全体形が不明確だが、規模や覆土はEトレンチのものと類似する。

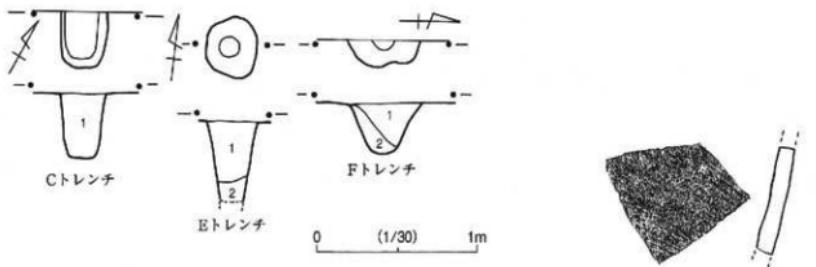
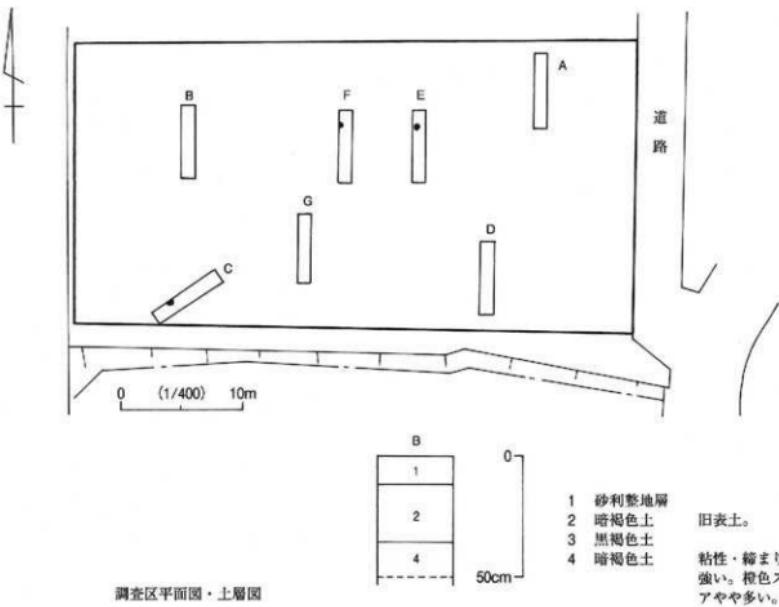
遺物は、中世に推定される鉄軸陶器の壺胴部片1点がAトレンチ第Ⅲ層で出土した。また、近世の灯明皿1点がDトレンチ第Ⅱ層（駐車場造成時の撤入土）で出土した。

調査の結果、ピットが工事予定地に分布する状況を確認した。遺跡の時期は確証に欠けるが、ピット覆土の基調となる土層から中世に比定される鉄軸陶器が出土したことや、調査地点が内城館の外郭地域に位置することから、内城館の造営時期と重なる古代末から中世の可能性が考えられる。

調査結果を受けて、工事着手前に発掘調査が必要であることを事業者に指示した。工事は未着工のまま中止となった。



第46図 史跡範囲と調査地 (1/5000)



Cトレンチ
1 黒褐色土
締まり弱い。
ローム粒多い。

Eトレンチ
1 暗褐色土
締まり無し。
ローム粒多い。
2 暗褐色土
貝殻片多い。

Fトレンチ
1 暗褐色土
締まり弱い。
ローム粒多い。
2 暗褐色土
締まりやや強い。
ローム粒多い。

A トレンチ出土土器（鉄軸開器）

ピット

第47図 調査区平面・土層図、ピット、出土遺物

34 上野原字押出し地点

調査目的 店舗駐車場造成工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市上野原字押出し1873、1875-1

調査期間 平成23年（2011）9月16日

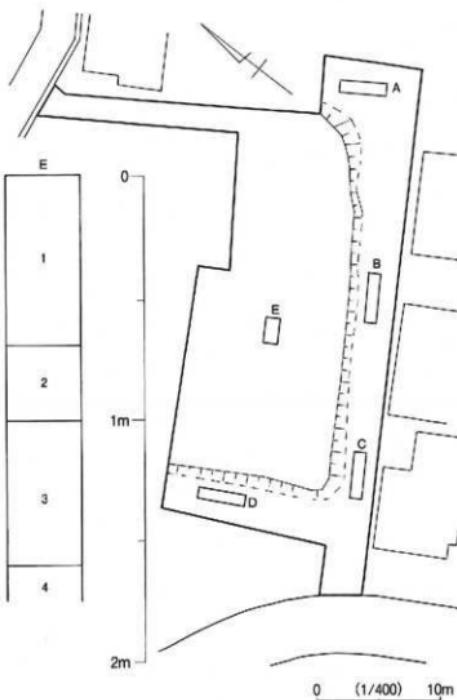
調査面積 20m² (対象面積1,063m²)

概要

調査地点は内城館址の北方70mに位置する。かつては調査地点と館址の間に深い谷が入っていたが、谷は中央自動車道建設工事時に埋め立てられた。調査地点の大半は盛土（高さ約1m）され、畑や雜草地が混在していた。標高253m。試掘溝を重機で掘り下げる結果、遺構・遺物はなかった。このため、今回の工事が盛土の削平を主としていることも考え併せて、事業者には慎重工事を指示した。



- 1 盛土 コンクリート塊を含む。
- 2 旧表土
- 3 暗褐色土 粘性・締まりやや強い。
橙色スコリアを多く含む。
- 4 橙色土 地山ローム



第48図 調査地点、調査区平面・土層図

第三章 まとめ

一連の調査成果を時代別に概述し、まとめとしたい。

縄文時代

桂川（相模川）や支流沿いの河岸段丘各所で縄文時代の土器や石器が出土した。土器は、早期中葉から後半期の押型文や条痕文、前期の羽状縄文や竹管文、中期中葉の五領ヶ台式から井戸尻式期及び後葉の曾利式期、後期前葉の称名寺式から堀之内式の出土例が多い。縄文時代中期のうち、大曾根遺跡では中期中葉から後半期の集落址が確認された。仲間川流域に点在する河岸段丘上には本遺跡を含めて縄文時代の遺跡が多数知られ、このうち南大浜・大倉・平呂・野田尻の各遺跡で縄文中期後半の住居や集落址が発掘調査されている。これら縄文集落のネットワークに人骨遺跡も位置付けることができる。新町遺跡では小規模な自然流路から中期の土器片が多量に出土した。近隣の丘陵地では日大明誠高校の造成工事などの際に縄文中期の土器が多数出土したことが報告されており、今回の調査結果と併せ、付近に該期の集落址が推定される。

古代（奈良・平安時代）

中心市街地がある河岸段丘背後の丘陵付近で、奈良・平安時代の遺構や遺物が出土した。このうち根本山遺跡では奈良時代前半期の堅穴住居1軒が確認された。同じ丘陵や付近の平地では、7世紀後半を最古に8世紀から10世紀の集落址の発見例が増えており、一帯が古代都留郡の主要な郷域であったと推定される。

中世

中心市街地の南端に位置する内城館址は、古代末から中世戦国期に上野原地域を支配した古郡氏及び加藤氏の居館とされている。周囲を段丘崖や深い谷で囲まれた天然の要害に位置していたが、館址の大半が未調査のまま中央自動車建設工事で消滅し、唯一残された館の北端部も宅地化され、館全体の考古学的な解明は半ば絶望的な状態であった。このような現状下、館の周辺で4件の試掘調査を実施したところ、谷や堀の外側に位置する小字「外城」で複数のピットを確認し、一部を検出した。遺構の時期は不確定であるが、内城館の周間に建物等の付属施設があった可能性も考えられ、館の考古学的な知見を得るうえでも周辺地域の試掘調査を今後も継続して行う必要性がある。

近世（江戸時代）

鶴川西岸の小倉地区で、経碑の台座下にあった石室から多数の経石が発見され、銘文などから天保14年（1843）に小倉地区の人々が願主となって法華經を書写した石を埋納した経塚（小倉経塚）であることが分かった。近世の経塚は多数の人々と多量の経石を用いることで大きな功徳が生み出せるという多数作善の思想に基づく信仰形態であり、本例についても村人たちが経塚の造営に関わることで五穀豊穣など村の安寧を願ったものであろう。江戸時代の小倉地区は大曾根村に属す小村であったが、地区内には本例を最古に安政元年（1855）までに造立された4基の経碑が現存しており石経信仰が盛んであった様子が分かる。

近代（明治時代）

桂川北岸の当月遺跡と牧野遺跡で、旧家の建て替え工事に伴う調査で明治期の煉瓦が出土した。煉瓦には窯壁に用いられたものも含まれ、寸法・胎土・成形方法などの点で、平成12年に牧野遺跡東端で発掘された煉瓦焼成用登り窯の煉瓦（窯体、製品）と共通する。この窯は、明治29年から始まった現在のJR中央線（中央東線）鉄道建設に際し、トンネルや橋脚などに必要な煉瓦を現地生産するために設けられた。古文書によると明治32年（1899）に操業し、毎日大量の煉瓦を製造したが、諸事情によりわずか8ヶ月で操業中止となった。この際の余剰煉瓦や窯の解体で発生した煉瓦が、庭作りの材料などとして周辺の住宅に持ち込まれたのである。

図版1



10 トレンチ竪穴住居確認状況



23 トレンチ集石確認状況



大曾根遺跡

36 トレンチ土器出土状況



石碑

小倉経塚



石室検出状況



石室底面

図版2



調査風景



豊穴住居確認地点

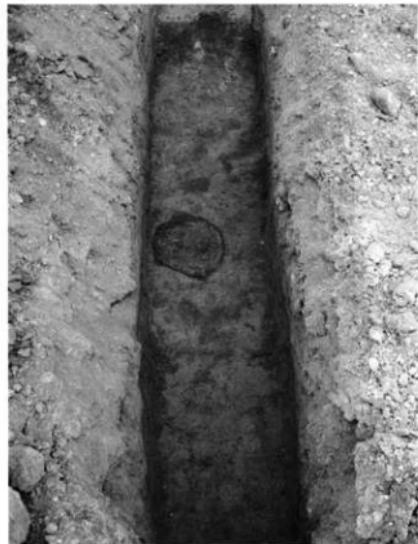


F トレンチ土層断面

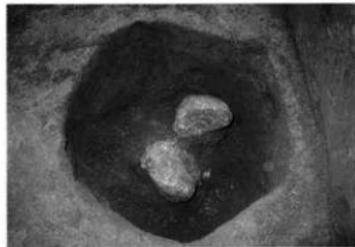


豊穴住居カマド煙道部確認状況

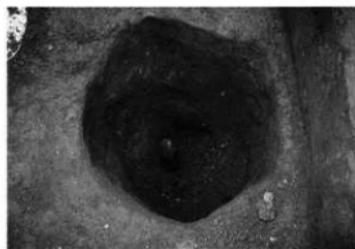
根本山遺跡



E トレンチビット確認状況



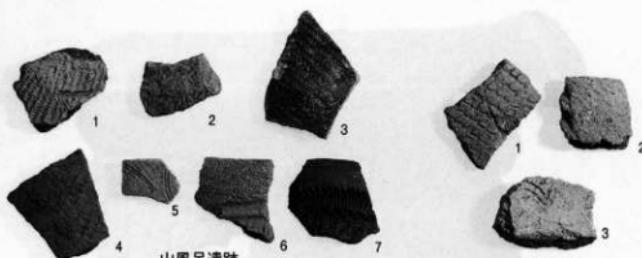
E トレンチビット覆土上層



E トレンチビット覆土下層

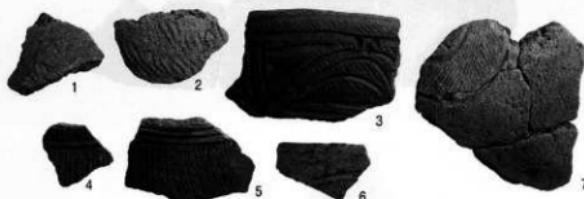
内城館址

図版3



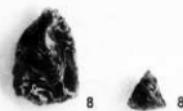
山風呂遺跡

田代遺跡

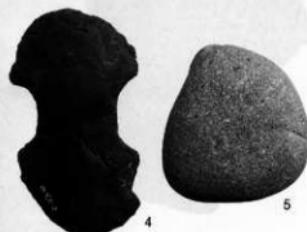
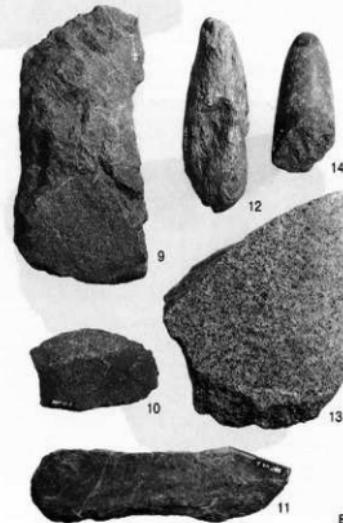


用竹神戸遺跡

出土土器



山風呂遺跡 用竹神戸遺跡



田代遺跡

出土石器

用竹神戸遺跡

圖版 4



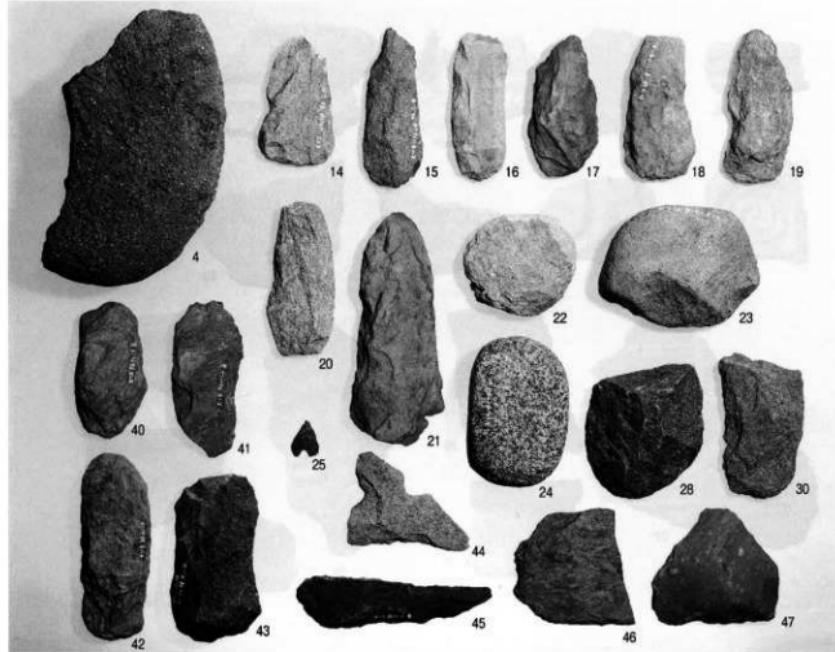
大曾根遺跡出土土器

図版5

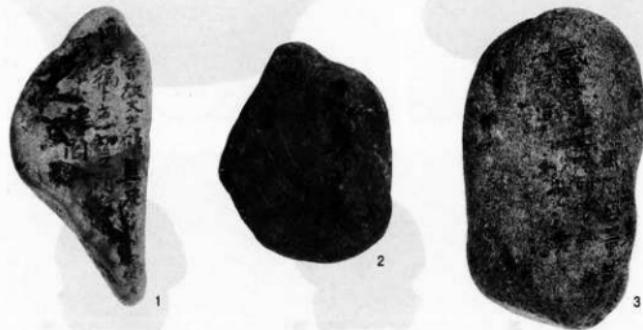


大曾根遺跡出土土器、土製品

図版6

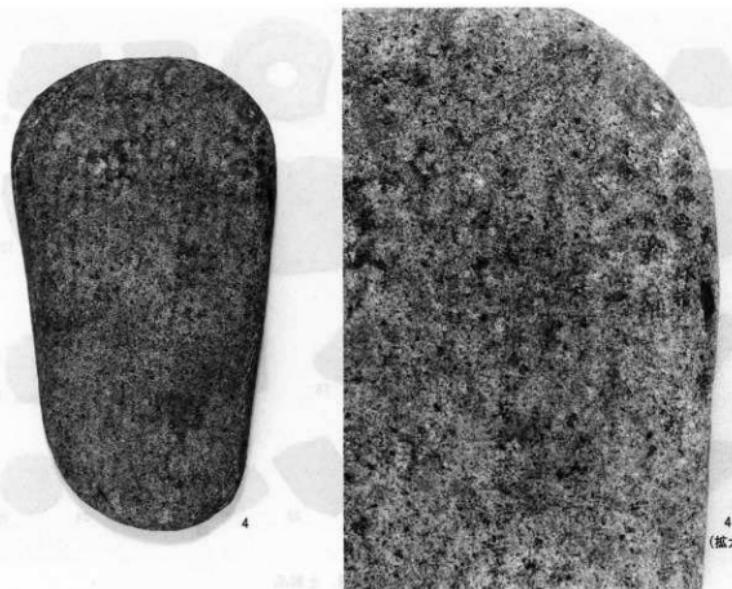


大曾根遺跡出土石器

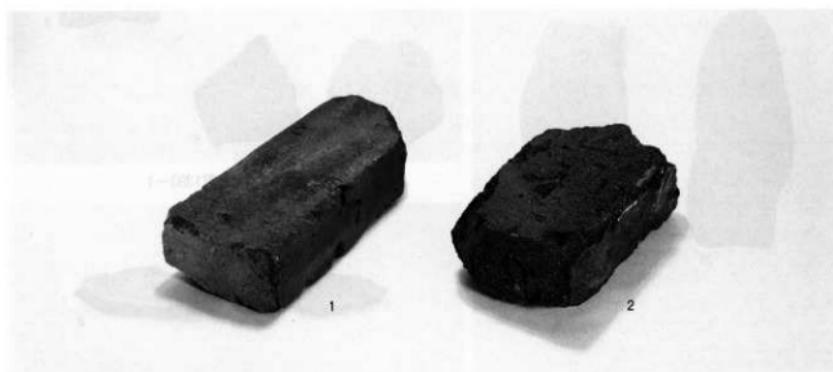


小倉経塚出土石器

図版7

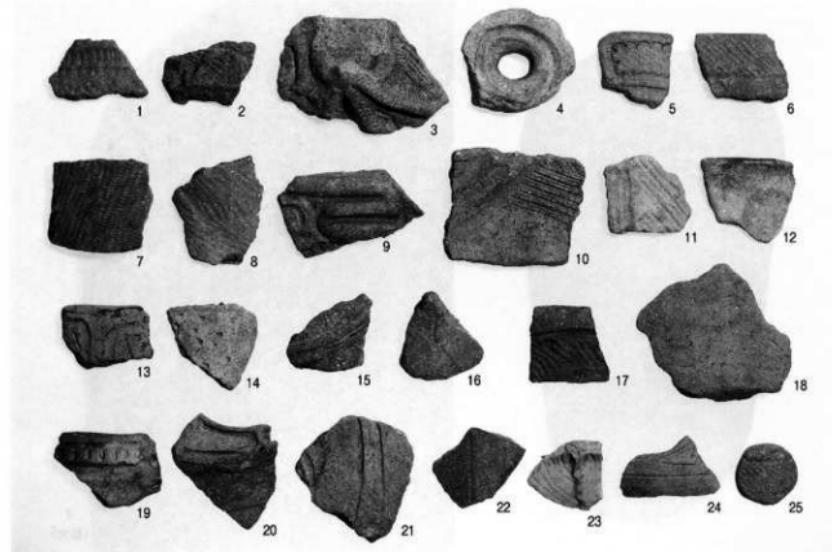


小倉経塚出土経石

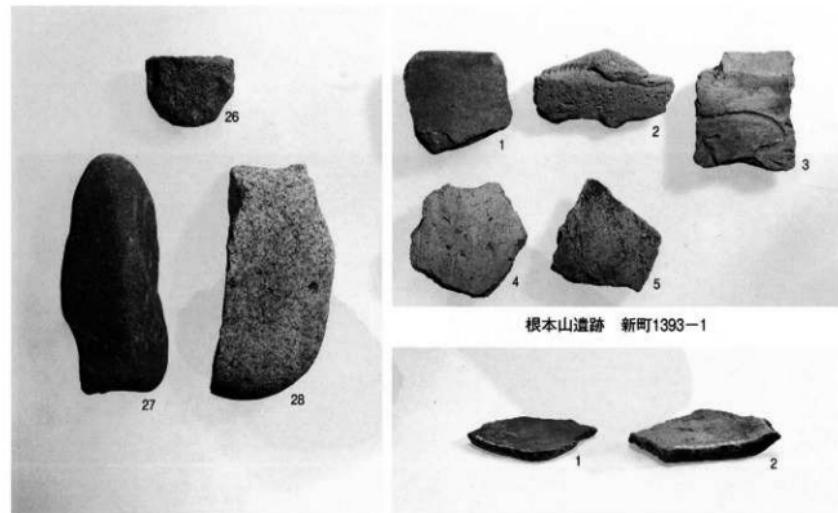


牧野遺跡出土煉瓦

図版8



新町遺跡出土土器、土製品



新町遺跡出土石器

根本山遺跡 新町1393-1
出土土器

報告書抄録

ふりがな	やまなしけんうえのはらししないいせきはぐくちょうさほうこくしょ 2			
書名	山梨県上野原市市内遺跡発掘調査報告書2			
シリーズ	上野原市埋蔵文化財調査報告書第6集			
編著者名	小西直樹			
編集発行	上野原市教育委員会			
所在地	〒409-0112 山梨県上野原市上野原3832 電話0554-62-3111			
発行日	平成24年(2012)3月31日			
遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	経緯度
大曾根遺跡	上野原市大曾根458他	19212	4-11	北緯35°38'17" 東経139°5'37"
	調査期間	調査面積	調査原因	種別、主な時代と遺構・遺物
	19930511~19930526	490m ²	試掘確認調査	集落跡、縄文時代、堅穴住居址・集石・土器・土製品・石器
遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	経緯度
新町遺跡	上野原市上野原1454-1他	19212	6-13	北緯35°37'39" 東経139°6'56"
	調査期間	調査面積	調査原因	種別、主な時代と遺構・遺物
	20080220~20080221	50m ²	試掘確認調査	散布地、縄文時代・土器・土製品・石器
遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	経緯度
根本山遺跡	上野原市上野原1295-1他	19212	6-2	北緯35°37'39" 東経139°7'4"
	調査期間	調査面積	調査原因	種別、主な時代と遺構・遺物
	20080826~20080829	61m ²	試掘確認調査	集落跡、奈良時代・堅穴住居址・土器
遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	経緯度
内城館址	上野原市上野原2144	19212	6-16	北緯35°37'27" 東経139°6'33"
	調査期間	調査面積	調査原因	種別、主な時代と遺構・遺物
	20100427~20100428	42m ²	試掘確認調査	城館、中世、ピット・土器
遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	経緯度
小倉経塚	上野原市大曾根783他	19212	4-14	北緯35°38'45" 東経139°5'33"
	調査期間	調査面積	調査原因	種別、主な時代と遺構・遺物
	20041105~20041116	4 m ²	試掘確認調査	経塚、江戸時代、経碑・経石
遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	経緯度
牧野遺跡	上野原市四方津439-11他	19212	3-3	北緯35°36'56" 東経139°5'22"
	調査期間	調査面積	調査原因	種別、主な時代と遺構・遺物
	20070119~20070119	8 m ²	試掘確認調査	散布地、明治時代・煉瓦
要約	本書は市内34ヶ所における遺跡確認調査の成果をまとめた。主な遺跡は次のとおり。大曾根遺跡は河岸段丘面に位置し、縄文時代中期の集落跡が確認された。新町遺跡は河岸段丘面に位置し、縄文時代中期の土器片を多量に含む自然流路が確認された。根本山遺跡は丘陵斜面に位置し、奈良時代の堅穴住居址1軒が確認された。内城館址は河岸段丘端部に位置する中世豪族の居館であり、周辺の調査で該期のものと思われるピット群が確認された。小倉経塚は江戸時代の天保年間に造営された一石経の経塚である。牧野遺跡では明治時代に近所で採業した中央線鉄道建設用の煉瓦工場で発生したと思われる赤煉瓦が出土した。			

上野原市埋蔵文化財調査報告書 第6集
山梨県上野原市 市内遺跡発掘調査報告書2

平成24年(2012)3月31日発行
編集・発行 上野原市教育委員会
